

令和 2 年度 文部科学省 専修学校による地域産業中核的人材養成事業
Society5.0 等対応カリキュラムの開発・実証

Society5.0 対応グローバルビジネス起業型人材育成プログラム開発事業

令和 2 年度事業 成果報告書

2021 年 3 月

一般財団法人 日本検定基盤財団

目次

1. 事業概要	3
1.1. 事業の趣旨	4
1.1.1. 事業の目的	4
1.1.2. 学習ターゲット・目指すべき人材像	4
1.2. 教育プログラムが必要な背景	5
1.3. 事業の実施体制	9
1.3.4. 事業の構成機関	9
1.3.5. 実施体制のイメージ	10
1.4. 事業計画の全体像	11
2. 開発	13
2.3. シラバス開発	14
2.3.4. 概要	14
2.3.5. 今年度の開発	14
2.4. 基礎ビジネス科目群教材開発	15
2.4.4. 概要	15
2.4.5. 情報・事例収集対象	15
2.4.6. 教材構成	16
2.5. 応用ビジネス科目群教材開発	21
2.5.4. 概要	21
2.5.5. 教材構成	21
2.6. 先端技術科目群教材開発	27
2.6.4. 概要	27
2.6.5. 教材構成	27
2.7. ビジネス演習教材（ケーススタディ）解答開発	32
2.7.4. 概要	32
2.7.5. 教材構成	32
2.8. ビジネス演習教材（PBL）開発	35
2.8.4. 概要	35
2.8.5. 教材構成	35
2.9. ビジネス日本語／英語教材開発	37
2.9.4. 概要	37
2.9.5. 教材構成	37
2.10. IT 日本語／英語教材開発	43

2.10.4.	概要.....	43
2.10.5.	教材構成.....	43
2.11.	日本／海外文化社会教材開発	49
2.11.4.	概要.....	49
2.11.5.	教材構成.....	49
3.	実証講座	54
3.1.	実証講座概要.....	55
3.2.	実証講座実施校.....	56
3.2.1.	日経教育グループ 専門学校那覇日経ビジネス.....	57
3.2.2.	学校法人宮崎総合学園 宮崎情報ビジネス医療専門学校.....	58
3.2.3.	学校法人秋葉学園 千葉情報経理専門学校.....	59
3.3.	受講者アンケート	60
3.3.1.	第1回実証講座 受講者アンケート	60
3.3.2.	第2回実証講座 受講者アンケート	65
3.3.3.	第3回実証講座 受講者アンケート	70
3.3.4.	第4回実証講座 受講者アンケート	75
3.3.5.	第5回実証講座 受講者アンケート	79
3.4.	実証講座まとめ	83
4.	まとめ	84
4.3.	今年度事業の総括	85
4.4.	事業終了後の成果活用方針.....	86
5.	巻末付録.....エラー! ブックマークが定義されていません。	

1. 事業概要

- 1.1. 事業の趣旨
- 1.2. 教育プログラムが必要な背景
- 1.3. 事業の実施体制
- 1.4. 事業計画の全体像

1.1.事業の趣旨

1.1.1. 事業の目的

近い将来、Society5.0 が到来する日本では、様々な分野のビジネスにおいて AI や IoT、ロボット等の先端技術が導入・活用され、ビジネスの在り方も大きく変革する。この変化による日本経済のさらなる発展には、この社会的変化に対応し、先端技術を活用した新たなビジネスモデルを描くことができる起業型人材が求められる。

このような人材には、ビジネス全般の知識は当然のことながら、先端技術やそれを活用したビジネスに関する知識が必要である。さらに、革新的なイノベーションのきっかけを得るために、自身とは異なる価値観を知り、取込んでいかなければならない。

そこで本事業では、上記の要件を満たすグローバルビジネス起業型人材の養成を目的とする教育プログラムの開発に取り組む。そこでは、日本人と外国人とが合同で、先端技術や日本での起業に必要なビジネスに関わる知識、国内外でのビジネスに必要な語学、国内外の文化・社会に関わる教養の習得を目指す。さらに、自身とは異なる文化・価値観を持つ相手と共同で学ぶことで相互理解を深め、新たな価値観を醸成する。これを通して、Society5.0 に対応できる日本人起業家および外国人起業家の育成モデルを構築し、日本経済ならびに商業実務分野専門学校教育の振興に寄与する。

1.1.2. 学習ターゲット・目指すべき人材像

日本での起業を志す日本人学生・外国人留学生を対象とする。Society5.0 の到来とともに大きな変革を迎える中で、先端技術を活用したビジネスを日本市場から世界市場まで見据えて展開できるグローバルビジネス起業型人材の養成を目指す。

1.2.教育プログラムが必要な背景

(1) Society5.0 の到来とビジネスの在り方の変革

近い将来、第4次産業革命により Society5.0 が到来する日本では、様々な分野のビジネスにおいて、AI や IoT、ロボット等の先端技術が導入・活用され、ビジネスの在り方も大きく変革する。平成30年6月15日に公開された内閣府による「未来投資戦略2018」では、第4次産業革命技術により、自動化や遠隔・リアルタイム化による生活・産業の変化、AI・ロボット等による単純作業の肩代わり、ライフスタイルに応じた働き方の選択など、様々な変化が予想されている。これらの変化は、分野横断的なものもあれば、各分野特有のものもあるが、いずれにせよ、あらゆる分野のビジネスに大きな変化をもたらすことが示されている。この社会的変化により日本経済がさらなる発展をすることが望まれるが、それには技術を駆使し新たなビジネスモデルを作り上げることのできる起業型人材が必要であることは言うまでもない。

(2) Society5.0 の技術革新に対応するビジネス起業型人材

上記のように、Society5.0 では AI や IoT、ロボットなどの先端技術が様々な分野のビジネスに導入・活用される。それには、大きく2つの類型が考えられる。既存のビジネスモデルに先端技術を導入して効率化・高度化したビジネスと、先端技術の活用を前提として新しい価値を創造するビジネスである。日本の発展のためにはこの2パターンとも積極的に取り組まれることが望ましいが、特に後者を実現するためには、経営者が先端技術に関する知識とビジネスに関する知識を併せ持ち、先端技術を活用した新たなビジネスモデルを描くことができることが必須要件となる。

これを踏まえると、様々な分野で起業を志す若手人材に対して、AI や IoT、ロボット等の先端技術に関わる分野横断的な知識を教授し、Society5.0 に対応した新たなビジネスモデルの着想を得るためのきっかけを与えることは、今後の日本経済の振興において極めて重要であると考ええる。

(3) 新しい価値観を取込むことの重要性

新たなビジネスを創出する際に重要なのは、今後社会にどのような変化が訪れ、どの分野にどのような課題が生まれるのかを、様々な価値観・観点で分析し、課題解決の方策を見出し事業化することである。したがって Society5.0 を目指して新たな価値を創出するビジネスを生み出すためには、先端技術の知識や先端技術を活用したビジネスの事例学習に加え、

多様な価値観があることを知り、自身とは異なる価値観をも理解を深めることが必要である。

例えば国内市場では、日本では昭和から平成にかけて、女性の社会進出という社会の大きな変化を迎えた。かつての日本経済は、男性の収入・消費を中心とした市場となっていたが、女性の社会進出が日本全体で進んだことで女性の収入・消費が増え、女性を中心とする新たな市場が生まれた。この変化の中で生まれた女性向けビジネスは、女性の価値観を理解し、ビジネスにこれを取込んだ結果生まれた商品・サービスを提供するものである。

また海外市場に関わる例として、近年の日本企業の海外市場への展開・推進がある。日本企業では海外進出を行うために、外国人材を雇い入れる傾向があるのは周知の事実である。これは、文化・宗教・価値観・社会的背景等が、日本と海外とは全く異なることから、海外という新たな市場でビジネスを行う際、外国人はどのような価値観を持ち、どのような商品・サービスにニーズがあるのかを的確に把握しなければならないからである。

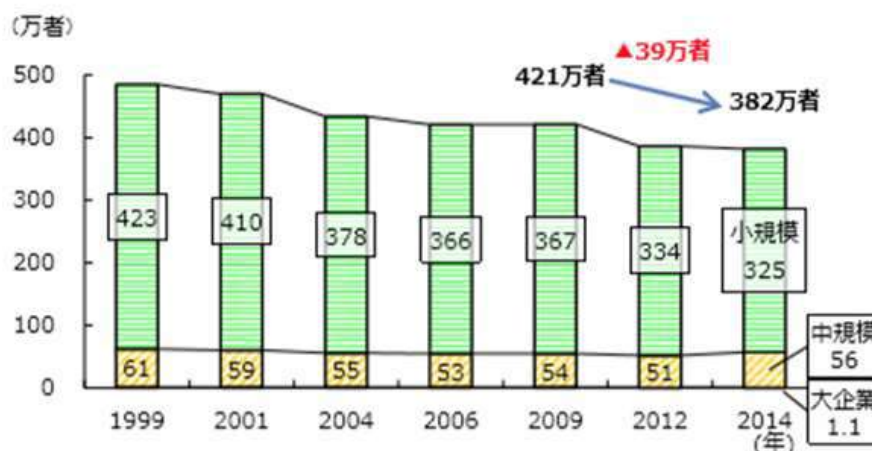
この 2 つの例からも判るように、新しいビジネスを生み出すためには、社会の変化を捉え、その変化によって生まれる新しい価値観を理解し、ニーズをとらえることが重要である。したがって、積極的に自身とは異なる価値観・文化に触れ、取り込んでいくことこそが、新たなビジネスの創出に直結する。

これを踏まえて第 4 次産業革命による社会の変化を考えると、様々な分野で新たなニーズが生まれると予想されているが、その中でも大きいものの一つは外国人のニーズである。Society5.0 では、自動翻訳等の技術により言語の違いによる障壁が低くなり、通信等の更なる発展により地理的・時間的な制約が克服されることで、世界中のビジネスが国内市場にとどまらず、世界市場へと大きく拡大していくと予想される。この変化により、日本市場には世界中の企業が参入し、日本企業も世界市場へと展開する動きを加速することになる。その際、日本企業が世界市場でグローバルなビジネスを展開するためには、外国人の価値観・文化を理解し、新たなニーズとして取り込むことが必要となる。すなわち Society5.0 に対応するビジネス起業型人材にとっては、新たな価値観を得るために、外国人と積極的に交流し外国人の価値観を取込んでいくことで、イノベーション創出のきっかけを掴むことができやすくなる。

(4) 日本人起業家の不足と外国人起業家の必要性

日本では現在、経営者の高齢化の進展等を原因に企業数が年々減少を続けている。次に示すグラフは、中小企業庁「2017 年版中小企業白書」から引用した国内企業数の推移である。1999 年以降、ほぼ変わることなく減少傾向が続いており、15 年間で小規模企業は約 100 万社減少し、中規模企業は約 5 万社減少している。これまで特に地方地域の経済を支えてきた中小企業および小規模企業が減少することで、地方地域の活力が失われ、ひいては日本経済の活力が衰退することが危惧される。

国内企業数の推移



※中小企業庁「2017年版中小企業白書 概要」より抜粋

この現状を打開するためには、起業を志す若手人材の育成・支援を展開し、企業数の増加を図ることが望まれることから、これまで様々な取組みが推進されてきた。しかしながら、総務省「就業構造基本調査」によれば、日本では起業希望者・起業家は特に2000年代に入って以降、急速に減少しており、2010年代以降は1980年代のおよそ半数程度に留まっている。そこで政府は、外国人起業家の受入れ拡大を目的に、外国人起業家がビザを取得する際の規制を緩和する等の取組みを開始している。外国人起業家が日本で起業しビジネスを展開すれば、日本の経済成長や雇用創出が期待でき、また、日本人とは異なる文化・価値観を有することから、イノベーションの創出や日本企業のグローバル化の促進も期待できる。しかし、外国人起業家は日本文化への理解、日本的な価値観を当然有していない場合が多い。これは、日本市場でビジネスを展開する際、大きなハンディキャップになると考えられる。したがって、外国人起業家の日本での活動を促進するためには、規制緩和等だけではなく、日本文化・日本的な価値観を含めた日本で必要となるビジネス教育を行うことが必要である。

(5) 専門学校業界・商業実務分野の現状

専門学校への入学者は、高校卒業者だけでなく、大卒者・外国人留学生が徐々に増加してきている。文部科学省「専門学校への入学者の学歴」によれば、昼間部の入学者は、「高校卒」60.6%、「外国人留学生・就学生」11.9%、「高校既卒」10.1%、「大学卒」7.5%となっている。また、夜間部では「大学卒」29.7%と最多で、「高校卒」23.6%、「高校既卒」22.7%、「専門課程卒」12.0%となっている。このように近年、専門学校への入学者は多様化しており、高卒者だけでなく、大卒の社会人や留学生が増加していることで、彼らの教育を行うための高度な専門教育を展開する環境の整備が喫緊の課題である。

また、ビジネス教育が主となる商業実務分野では、外国人留学生が他の分野に比べて多い。

一般財団法人職業教育・キャリア教育財団「専門学校における留学生受入れ実態に関する調査報告書（平成 25 年度）」によれば、専門学校の留学生入学生数のうち、商業実務分野への進学者が 27.7%と最多である。したがって、商業実務分野では、外国人をも対象としたビジネス教育環境の整備が大きな課題となっている。

(6) 本事業の実施意義

本事業では、以上の背景を踏まえ、先端技術を活用できるグローバルビジネス起業型人材を育成する教育プログラム開発に取り組む。そこでは、AI や IoT 等の先端技術に関わる知識と、日本で起業するために必要なビジネスに関わる知識、先端技術を活用したビジネスの事例等について、外国人留学生と日本人学生とが合同で学習する。さらに、外国人留学生には日本でのビジネスを行うためのビジネス日本語や日本文化社会、先端技術を活用するための IT 日本語に関する教育を実施する。また日本人学生には、外国人活用や海外展開等に必要ビジネス英語や海外文化・社会、先端技術を活用するための IT 英語に関する教育を実施する。この教育プログラムを開発することで、Society5.0 に対応する日本人起業家および外国人起業家の育成モデルを構築し、日本経済ならびに商業実務分野専門学校教育の振興に寄与する。

1.3.事業の実施体制

1.3.4. 事業の構成機関

本事業では一般財団法人日本検定基盤財団（以下、当財団）が事業実施主体となり、以下の教育機関、企業・団体に協力を得て構成した。

(1) 教育機関

名称	都道府県名
学校法人秋葉学園千葉情報経理専門学校	千葉県
日経教育グループ専門学校日経ビジネス	沖縄県
学校法人宮崎総合学院宮崎情報ビジネス専門学校	宮崎県
学校法人清風明育社清風情報工科学院	大阪府
学校法人新井学園赤門会日本語学校	東京都

(2) 企業・団体

名称	都道府県名
株式会社デジタルアクト	京都府
ViZO 株式会社	神奈川県
株式会社ネクステージ	東京都
有限会社サイバーブレインズ	沖縄県
公益財団法人国際人財開発機構	東京都
COPRONA 株式会社	神奈川県
株式会社 VIT Japan	ベトナム

1.3.5. 実施体制のイメージ

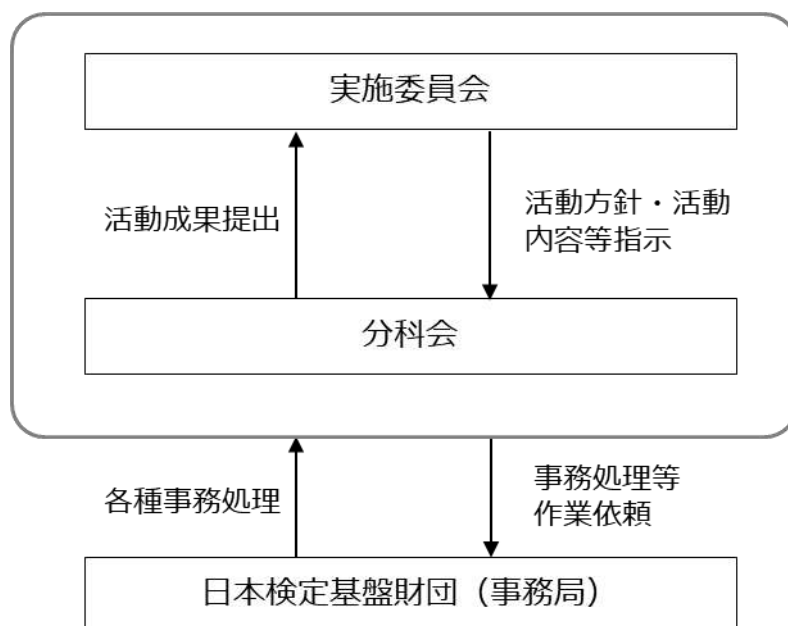
本事業実施に際して、「実施委員会」「分科会」を設置した。

実施委員会は、ビジネス分野の専修学校・企業団体等で構成される本事業の推進主体である。ここでは、事業全体の活動方針・計画、各事業活動の実施方針・実施内容、活動成果の評価等の重要事項に関する検討・意思決定や、分科会に対する具体的な活動方針の指示、進捗管理等を行う。

分科会は、実施委員会の構成機関から選抜すると共に、必要に応じて他の機関・有識者への参画要請を検討して構成する。分科会では、実施委員会の指示のもと、各事業活動の企画や具体的な仕様の検討、実作業の推進等を担当する。

当財団は、事業全体の進捗や事業経費のマネジメントを行うと共に、上記の実施委員会・分科会の構成機関への連絡・調整、資料準備等の事務作業を担当した。

なお、教育プログラムの具体的内容を検討する際には、とりまとめを当団体が担当し、監修を専門学校日経ビジネスおよび株式会社デジタルアクトに依頼して検討を行うこととした。この体制のもと、実施委員会・分科会にて教育プログラムの検討を行った。



1.4.事業計画の全体像

本事業は 2018 年度から 2020 年度にかけて実施する計画で、今年度はその第 2 年度である。各年度の事業活動項目を以下に記載する。

次章以降、本年度の各活動項目の概要と成果を報告する。

(1) 2018（平成 30）年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	① 経営者ヒアリング調査 ② 商業実務分野専門学校等アンケート調査 ③ 教育事例・教材事例調査
開発	① カリキュラム骨子 ① 応用ビジネス科目群教材開発情報収集 ② 先端技術科目群教材開発情報収集 ③ ビジネス演習教材（ケーススタディ）試作
実証	なし
会議	① 実施委員会（2 回） ② 分科会（2 回）

(2) 2019（平成 31、令和 1）年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	なし
開発	① スキル標準開発 ② カリキュラム開発 ③ シラバス開発 ④ 応用ビジネス科目群教材開発 ⑤ 先端技術科目群教材開発 ⑥ ビジネス演習教材（ケーススタディ・PBL）開発 ⑦ ビジネス日本語／英語教材開発情報収集 ⑧ IT 日本語／英語教材開発情報収集 ⑨ 日本／海外文化社会教材開発情報収集
実証	① 第 1 回実証講座

会議	① 実施委員会（3回） ② 分科会（3回）
----	--------------------------

(3) 2020（令和2）年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	なし
開発	① シラバス開発 ② 基礎ビジネス科目群教材開発 ③ 応用ビジネス科目群教材開発 ④ 先端技術科目群教材開発 ⑤ ビジネス演習教材（ケーススタディ）解答開発 ⑥ ビジネス演習教材（PBL）開発 ⑦ ビジネス日本語／英語教材開発 ⑧ IT 日本語／英語教材開発 ⑨ 日本／海外文化社会教材開発
実証	① 第2回実証講座
会議	① 実施委員会（3回） ② 分科会（3回）

2. 開発

- 2.1. シラバス開発
- 2.2. 基礎ビジネス科目群教材開発
- 2.3. 応用ビジネス科目群教材開発
- 2.4. 先端技術科目群教材開発
- 2.5. ビジネス演習教材（ケーススタディ）解答
開発
- 2.6. ビジネス演習教材（PBL）開発
- 2.7. ビジネス日本語／英語教材開発
- 2.8. IT 日本語／英語教材開発
- 2.9. 日本／海外文化社会教材開発

2.1. シラバス開発

2.1.1. 概要

カリキュラムに基づき、各科目の学習目標、学習概要、学習内容（各コマの学習項目）、教科書、評価方法等の項目を定めたシラバスを開発する。

2.1.2. 今年度の開発

今年度は、新たに教材を開発した「基礎ビジネス科目群」の「ビジネス基礎」科目、「ビジネス演習科目群」の「新規ビジネス計画立案 PBL」科目、「選択科目群」の「経営戦略マネジメント」科目、「IT テクノロジー概論」科目、「先端技術と社会」科目について、上記の項目に従いシラバスを開発した。ここでは例として「経営戦略マネジメント」のシラバスを提示する。今年度開発した全てのシラバスは巻末付録に掲載する。

科目名	経営戦略マネジメント（日本語・英語）		
領域	言語・文化・社会	科目群	選択科目群
目標	本科目を通して、経営戦略マネジメント分野の重要な専門用語の意味を習得し、文章を読んで理解できるようにする。		
概要	本科目では、ビジネス領域の専門的な日本語・英語を身につけるため、IT パスポートのストラテジ分野における経営戦略マネジメントの項目を学習する。受講者は経営戦略マネジメントに関する専門用語を学び、その用語が使用された文章を読解する。		
内容	第1回 経営情報分析手法 第2回 経営戦略に関する用語(1) 第3回 経営戦略に関する用語(2) 第4回 経営戦略に関する用語(3) 5. 経営戦略に関する用語(4) 6. マーケティングの基礎(1) 7. マーケティングの基礎(2) 8. マーケティングの基礎(3) 9. マーケティングの基礎(4) 10. マーケティング手法 11. Web マーケティング 12. 価格設定方法 13. ビジネス戦略立案及び評価のための情報分析手法 14. 経営管理システム(1) 15. 経営管理システム(2)		
教科書	e ラーニング上に掲載している		
評価	e ラーニング上の課題から判断する		
備考	特になし		

2.2.基礎ビジネス科目群教材開発

2.2.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、基礎ビジネス科目群として日本でビジネスを行うための前提となる一般的なビジネス分野の知識に加え、現代のビジネスパーソンに必須の知識やスキルを学ぶ。この科目群を構成する科目として、「ビジネス基礎」という科目を提供する。当該科目では、経済やビジネス、主要な業界、企業活動などのビジネスや経済に関する基本的な知識を学ぶことができるようになっている。

今年度は、「ビジネス基礎」科目の教材構成を検討するための既存教材の情報・事例収集とこの「ビジネス基礎」科目の教材開発を行った。

2.2.2. 情報・事例収集対象

本科目のため教材として活用するため及び開発する教材の参考とするため、ビジネスの基礎的な知識や、商業、経済、経営、社会人基礎力などに関する教材や書籍の情報・事例を収集した。以下に収集した教材・書籍などの名称一覧を提示する。なお、内容に関する情報は巻末付録に掲載する。

基礎ビジネス科目 教材・書籍の情報・事例一覧

- ①商業 334 ビジネス基礎 新訂版
- ②商業 335 ビジネス基礎 [新訂版]
- ③商業 302 新ビジネス基礎
- ④経済のことよくわからないまま社会人になった人へ【第4版】
- ⑤経済ってそういうことだったのか会議
- ⑥大人のための社会科 未来を語るために
- ⑦よくわかる社会人の基礎知識～マナー・文書・仕事のキホン～
- ⑧わかる社会人基礎力 人生100年時代を生き抜く力
- ⑨求められる人材になるための社会人基礎力講座 第2版
- ⑩社会人基礎力(大学生の社会人準備講座)
- ⑪イラスト図解 社会人として必要な経済と政治のことが5時間でざっと学べる
- ⑫図解 経済入門 基本と常識

- ⑬改訂版 図解 1 時間でわかる経済のしくみ
- ⑭会社に入る前に知っておきたい これだけ経済学
- ⑮今までで一番やさしい経済の教科書[最新版]
- ⑯高校生からの経済入門
- ⑰世界一やさしい 経済の教科書 1 年生
- ⑱最新版 カリスマ受験講師細野真宏の経済のニュースがよくわかる本 日本経済編
- ⑲カリスマ受験講師細野真宏の経済のニュースがよくわかる本 世界経済編
- ⑳細野真宏の最新の経済と政治のニュースが世界一わかる本！
- ㉑Q&A 日本経済のニュースがわかる！ 2020 年版
- ㉒Q&A 日本経済のニュースがわかる！2021 年版
- ㉓この 1 冊でわかる世界経済の新常識 2020

2.2.3. 教材構成

この科目では、経済やビジネス、主要な業界、企業活動といったビジネスに関する分野の基礎的な知識を身につけるための教材を作成した。本教材のテーマは 15 個、以下のようになっている。

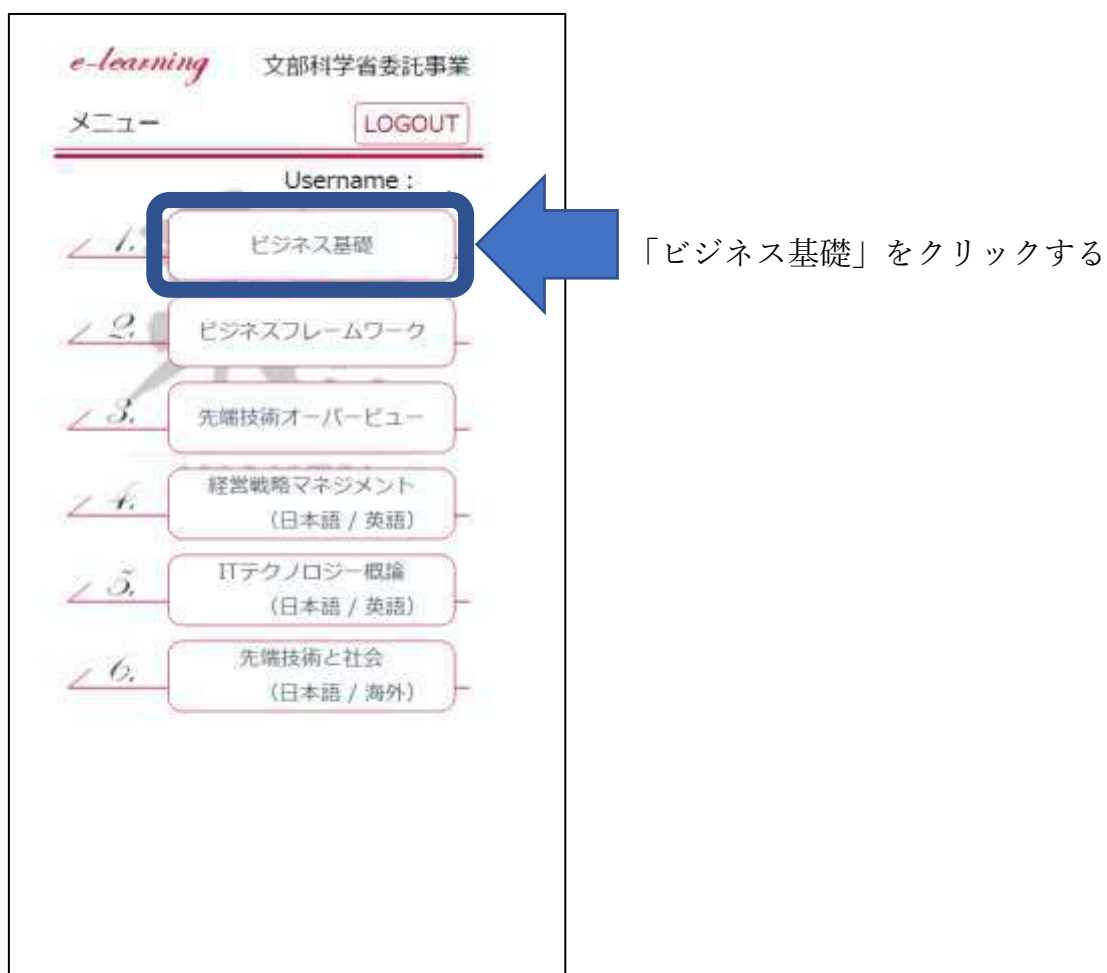
「ビジネス基礎」教材テーマ一覧

- 1. 生活と経済
- 2. ビジネスの発展
- 3. 流通機構
- 4. ものの生産者
- 5. サービスの生産者
- 6. 小売業
- 7. 卸売業
- 8. 物流業
- 9. 金融業
- 10. 情報通信業
- 11. 企業の経営組織
- 12. 資金調達
- 13. 企業が納める税
- 14. 雇用の意義
- 15. 企業活動と倫理観

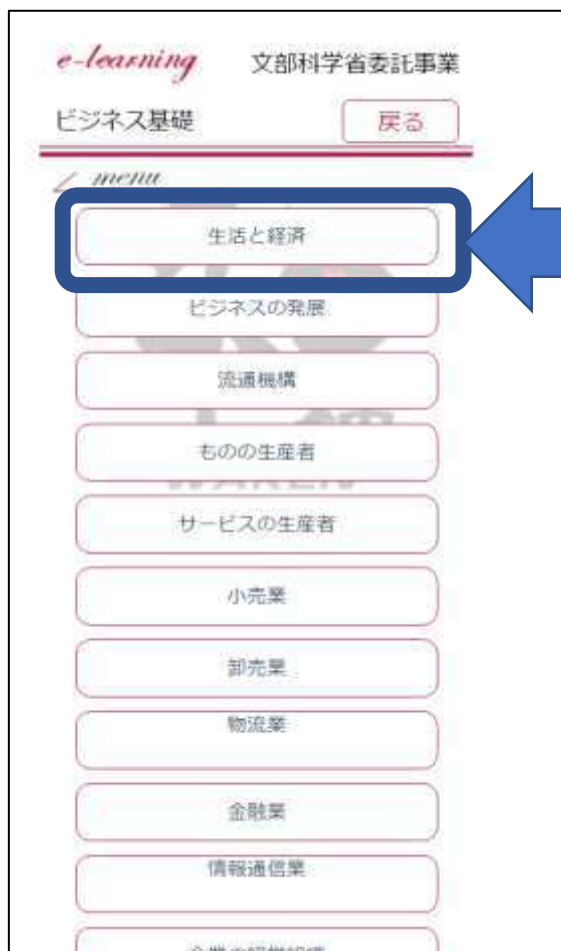
各テーマに対して読解教材と確認テストを開発した。読解教材は、テーマに関する内容について記載された 1,000 字程度までの文章で、経済やビジネスの仕組みについての具体例や専門用語に関する説明などが記述されている。確認テストは、読解教材を読んだ後の理解度をチェックするための問題となっており、多肢選択式の問題が各テーマ 2 問ずつ用意されている。

これらの教材は e ラーニングコンテンツ化を行っており、今年度開発した e ラーニングシステムに実装した。以下に使用方法について図を用いて説明する。

<e ラーニングシステム メニュー画面>



<「ビジネス基礎」メニュー画面>



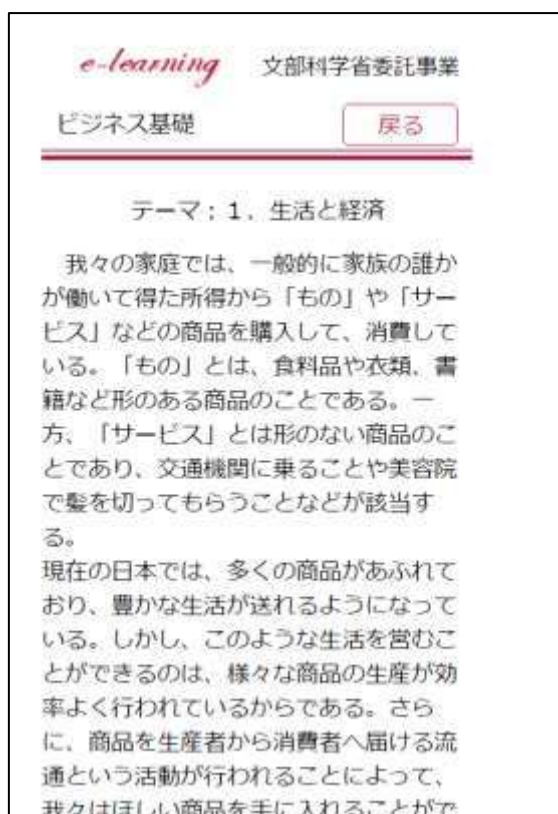
興味のあるテーマをクリックする

<「生活と経済」メニュー画面>



「学習」をクリックすると読解教材の
ページに移動

<読解教材のページ>



<「生活と経済」メニュー画面>



「問題」をクリックすると確認テスト
のページに移動

<確認テストのページ>

A	家計
B	流通
C	企業
D	政府

2.3.応用ビジネス科目群教材開発

2.3.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、応用ビジネス科目群として実際の日本で起業するために必要となる事業企画・計画の考え方やマーケティングの手法・実践、日本の起業関連の法手続き、資金調達手法等のビジネスに関する実践的な知識を学習する。この科目群を構成する科目として、「ビジネスフレームワーク」という科目を提供する。当該科目では、既存のビジネスや自身が計画しているビジネス、業界、それらの内部・外部環境等を分析するためのフレームワークを学ぶことで、実践的なケーススタディや PBL 科目、さらには自身の事業計画立案に活用できるようにすることを目標としている。

昨年度、この「ビジネスフレームワーク」科目の教材の開発を行った。今年度は昨年度開発した教材の追加開発と e ラーニングコンテンツ化及び e ラーニングへの実装を行った。

2.3.2. 教材構成

昨年度は、ビジネスや MBA 等の教材、教育 WEB サイト等で取り扱われるビジネス系フレームワークの中から、頻繁に取り上げられる重要フレームワーク 15 個を選択し、教材を開発した。以下が開発した教材のテーマ一覧である。

「ビジネスフレームワーク」教材テーマ一覧

- ① MECE
- ② ロジックツリー
- ③ PEST 分析
- ④ 5つの力分析
- ⑤ 3C 分析
- ⑥ SWOT 分析
- ⑦ クロス SWOT 分析
- ⑧ プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM)
- ⑨ セグメンテーションとターゲティング
- ⑩ ポジショニング (ポジショニングマップ)
- ⑪ マーケティングミックス (4P)

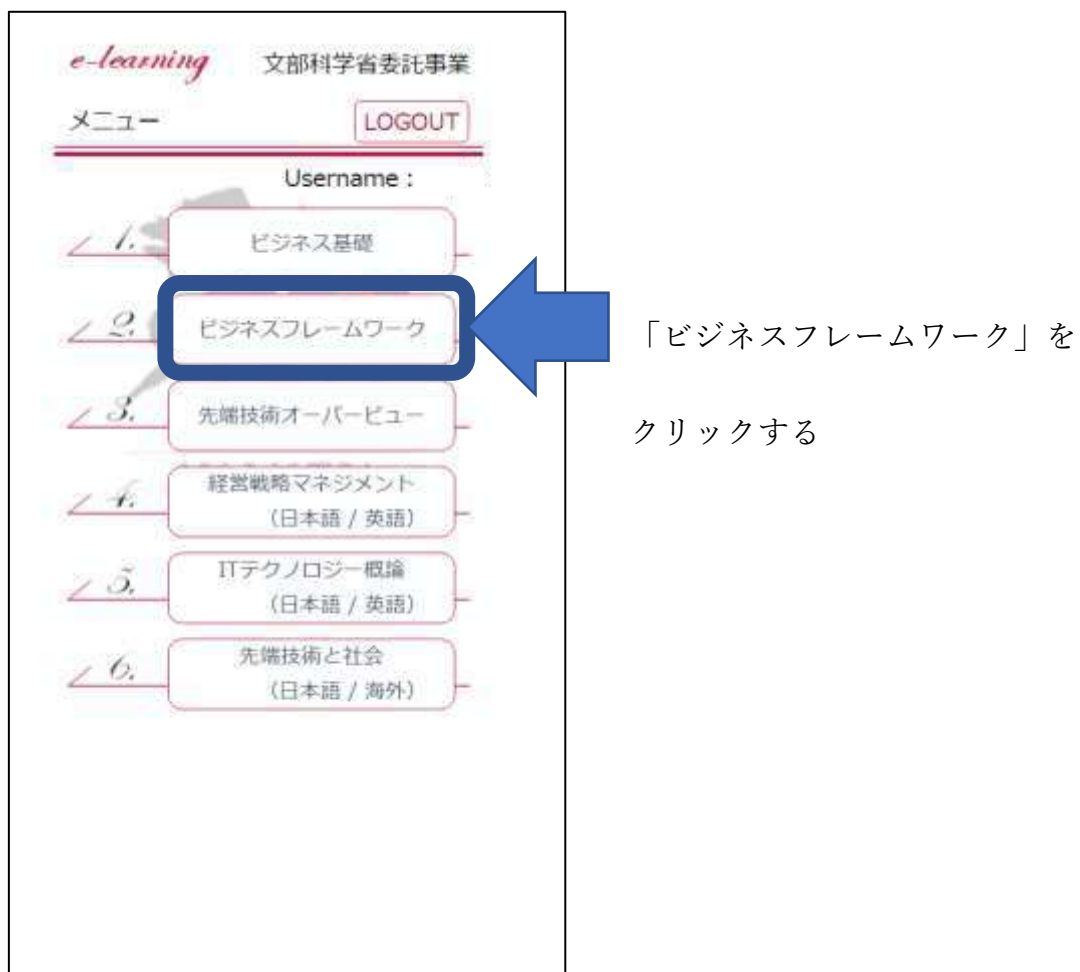
- ⑫ プロダクト・ライフサイクル (PLC)
- ⑬ キャズム
- ⑭ MFT フレーム
- ⑮ CAGE

これらの教材はフレームワークを解説する概要部分と、学習したフレームワークを実際に活用して分析を行うための課題部分によって成り立つスライド式の講義資料である。ノートにはこの教材用の原稿が記載されており、この教材を集合学習で使う場合にはそれを参考に講義を行うことができるようになっていた。また、スライドに合わせて原稿を読み上げる映像を作成することで、eラーニング教材化できるようになっていた。

今年度はまず、フレームワークを解説する概要部分に実際の分析適用例を追加した。分析適用例は、専門学校の学生にも身近でわかりやすい実際の企業・業界・市場（マクドナルド、コンビニ業界、スマートフォン市場など）としている。また、学習したフレームワークを実際に活用して分析を行うための課題部分に対する回答例も作成した。ここでも実際の企業・業界・市場などを用いた分析結果を提示している。

さらに、これらの教材のeラーニング教材化を行った。スライドの資料に合わせノートの原稿を読む講師の声が吹き込まれた動画教材となっており、これを用いてビジネスフレームワークの個人学習を行ったり、集合授業において授業の中で視聴させたりすることができる。これらは、今年度開発した本事業のeラーニングシステムに実装している。次頁から使用方法について図を用いて説明する。

<e ラーニングシステム メニュー画面>



<「ビジネスフレームワーク」メニュー画面>



興味のあるテーマをクリックする

<「MECE」メニュー画面>



「動画」をクリックすると動画教材の
ページに移動

<「動画」画面>



<「MECE」メニュー画面>



「問題」をクリックすると課題と解答
例の動画のページに移動

<「解説」画面>



2.4.先端技術科目群教材開発

2.4.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、先端技術科目群として Society 5.0 において様々な分野のビジネスで活用されうる AI、IoT、ロボットをはじめとする新技術について、それぞれの種別・概要・仕組み・現時点での活用事例等を学習する。この科目群を構成する科目として、「先端技術オーバービュー」という科目を提供する。当該科目では、先端技術について学ぶことで、実践的なケーススタディにおける先端技術導入事例の仕組みの理解、さらには自身の事業計画立案に活用できるようにすることを目標としている。

昨年度は、この「先端技術オーバービュー」科目の教材の開発を行った。今年度は昨年度開発した教材の e ラーニングコンテンツ化及び e ラーニングへの実装を行った。

2.4.2. 教材構成

昨年度は、Society 5.0 実現のカギとなる代表的な先端技術の中から 7 つテーマを選択し、教材を開発した。以下が開発した教材のテーマ一覧である。

「先端技術オーバービュー」教材テーマ一覧

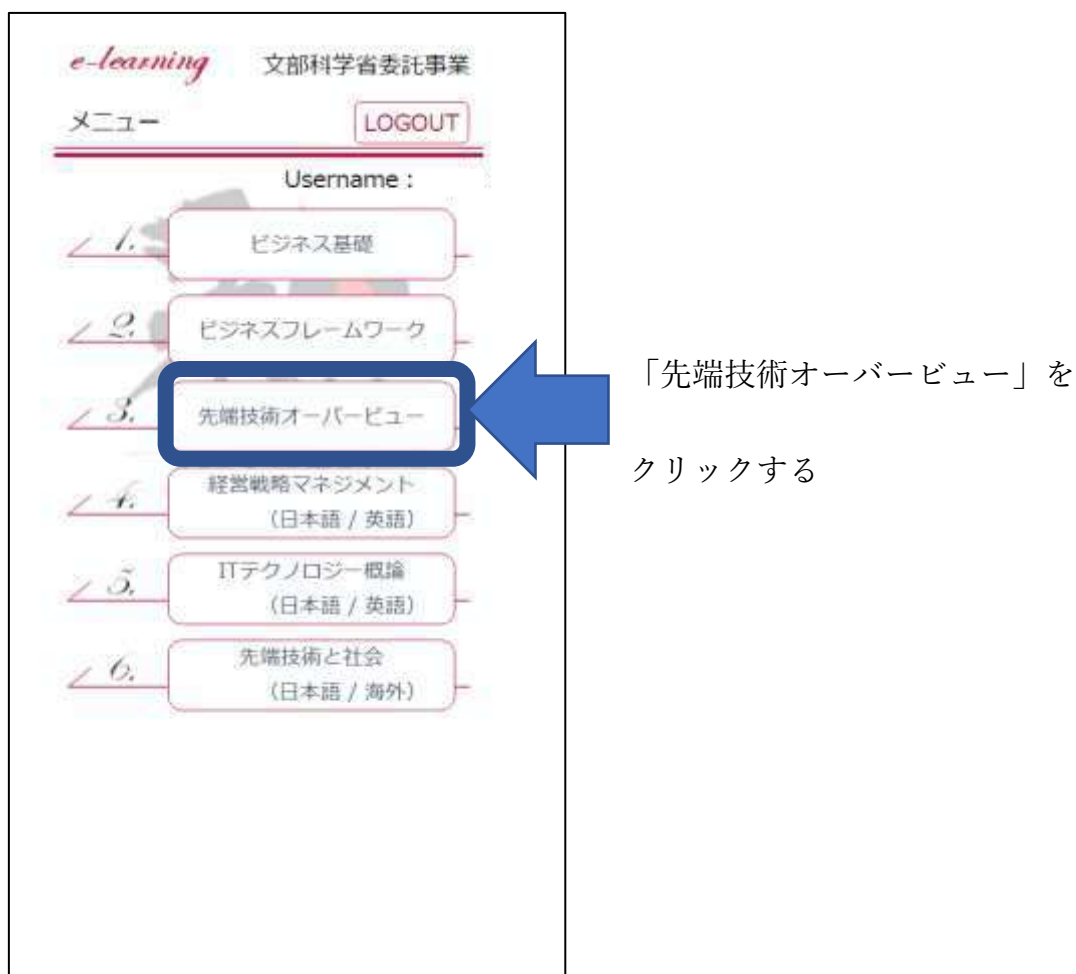
- ① IoT
- ② AI
- ③ 通信技術（5G）
- ④ クラウドコンピューティング
- ⑤ ビッグデータ
- ⑥ VR/AR
- ⑦ ブロックチェーン

これらの教材は先端技術の概要を解説するスライド 1 点と、その先端技術の現時点での導入・活用事例を紹介するスライド 1 点で、1 つのテーマに対して計 2 つのスライドから成り立つ講義資料である。ノートにはこの教材用の原稿が記載されており、この教材を集合学習で使う場合にはそれを参考に講義を行うことができる。また、スライドに合わせて原稿を

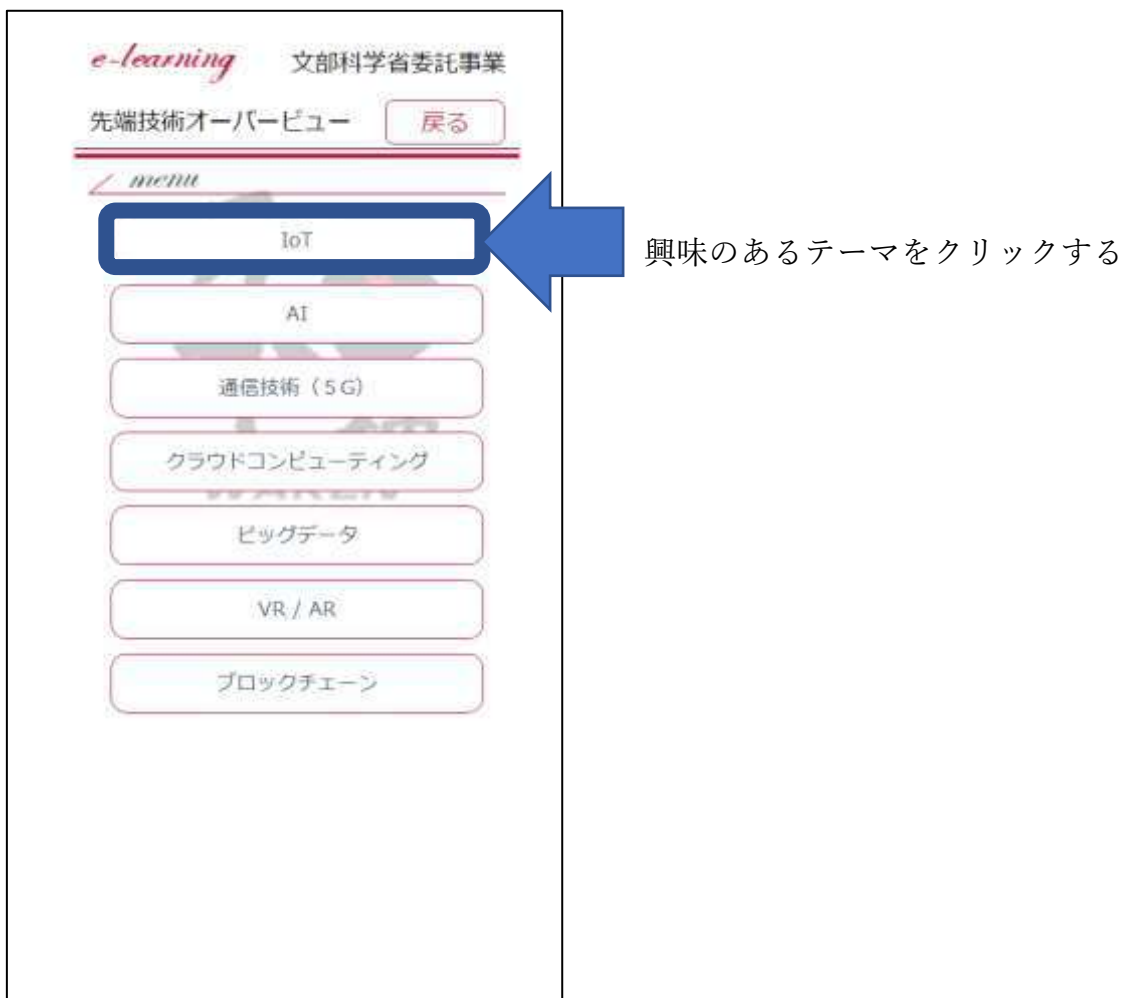
読み上げる映像を作成することで、eラーニング教材化できるようになっていた。

今年度はこれらの教材の e ラーニング教材化を行った。スライドの資料に合わせノート
の原稿を読む講師の声が吹き込まれた動画教材となっており、これを用いて IoT、AI をは
じめとした先端技術に関する個人学習を行ったり、集合授業において授業の中で視聴させ
たりすることができる。これらは、今年度開発した本事業の e ラーニングシステムに実装し
ている。以下に使用方法について図を用いて説明する。

<eラーニングシステム メニュー画面>



<「先端技術オーバービュー」メニュー画面>



<「IoT」メニュー画面>



「学習」をクリックすると先端技術の概要を学ぶ動画のページに移動

<「学習」画面>



<「IoT」メニュー画面>



「問題」をクリックすると先端技術導入事例の紹介と課題を提示する動画のページに移動

<「問題」メニュー画面>



2.5. ビジネス演習教材（ケーススタディ） 解答開発

2.5.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、ビジネス演習科目群を構成する科目として、ケーススタディ学習を取り入れる。当該科目では、医療、農業、製造業、生活など大きな変革が予想されている分野における先端技術を活用したビジネスの事例を対象に、社会的背景・課題、技術導入による効果、今後の展望等を分析・研究する形で学習を行う。

今年度は、昨年度開発したケーススタディ教材の最後に設定していた課題の解答例を開発した。

2.5.2. 教材構成

昨年度は、一昨年度作成した試作教材をもとに、実際の先端技術導入事例を題材とした 10 点のケーススタディ教材を開発した。教材のテーマ一覧は以下である。

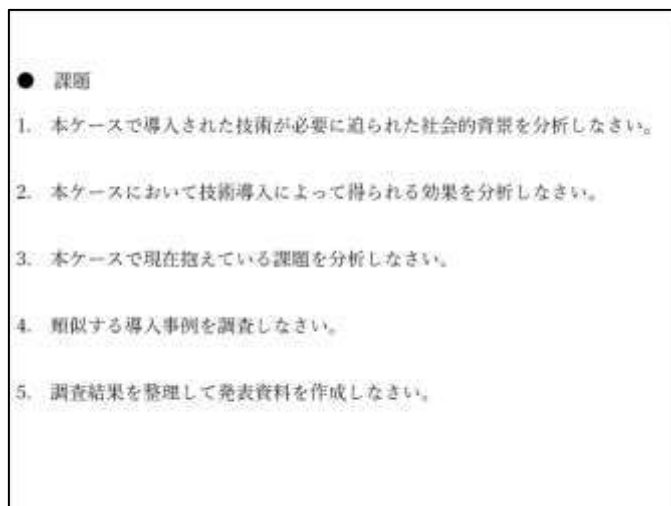
<ケーススタディ教材テーマ一覧>

ケース 1	ICT を活用した養殖漁業
ケース 2	高齢者の健康管理・見守り支援
ケース 3	妊婦と医師を結ぶ遠隔健診
ケース 4	灌水・施肥作業の自動化
ケース 5	建設作業の改善
ケース 6	ドローン活用による災害対応の迅速化
ケース 7	AI を活用した保育所入所選考
ケース 8	GPS によるデマンドバスロケーションシステム
ケース 9	IoT による注文決済サービス
ケース 10	AI を活用した授業支援システム

それぞれのケーススタディがテーマとして取り扱っているのは、「漁業」「介護」「医療」「農業」「建設」「災害救助」「保育」「交通」「飲食」「教育」の計 10 分野であり、いずれも人材不足や業務過多により ICT や先端技術の導入が切望されている業界である。これらの

ケーススタディ教材は、ケース説明、検討課題を掲載した講義資料と、検討課題に対する指導時のポイント等を掲載した指導ガイドによって構成される。今年度は、講義資料に掲載されている検討課題の解答例を作成した。なお、昨年度作成した検討課題は以下のようになっている。

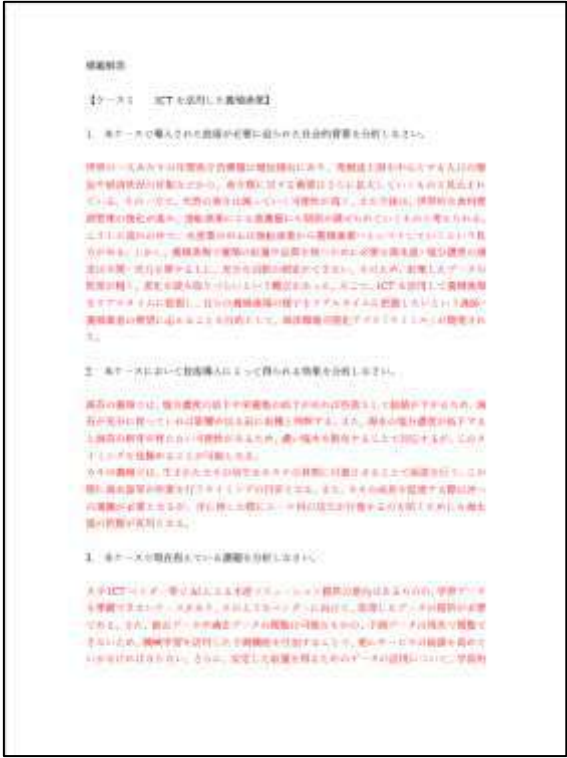
<講義資料 ケーススタディ検討課題（昨年度開発）>



課題の「1. 本ケースで導入された技術が必要に迫られた社会的背景を分析しなさい。」から「3. 本ケースで抱えている課題を分析しなさい。」まではケーススタディ教材内の情報を整理することで回答が可能である。「4. 類似する導入事例を調査しなさい。」はインターネットなどを通じて情報収集を行うことを想定している。「5. 調査結果を整理して発表資料を作成しなさい。」は、調査した事例を授業内で講師やほかの受講者に向けて発表を行うために、その資料を作成するという課題になっている。

いかにケーススタディの解答例の画像を提示する。なお、全 10 章分の解答例及び発表資料は巻末付録に掲載する。

<ケーススタディ 解答例>



<ケーススタディ 発表資料例>

フィールドサーバとは・・・

農業ITベンチャーのベジタリア株式会社のグループに属する株式会社イータが、エクスプレスエンスが開発。

温度、湿度、日照を測定することにより、安定した生育環境をモニタリングできる。また、過去の生育記録と環境データにより、品質や収穫の関係が見えてくる。収集したデータはパソコンやタブレットなどで確認できる。スマートフォンで日々の農作業を記録するアプリケーションサービス「アグリノート」でも閲覧可能。

フィールドサーバにより、生産者は農業現場で必要とされる圃場の環境情報を作物の生育状況を常時モニタリングし、データに基づいた栽培管理が実現。

【参考】SMART AGRICULTURE <https://imanager.jp.com/>
ベジタリア株式会社 <http://www.vegetalia.co.jp/user-solutions/for-feldservers/>

栽培作物の特性に応じて選べる多彩なセンサ

温度・湿度・日照
センサー

土壌水分・土壌温度
センサー

葉面温度・葉面湿度
センサー

CO2センサー

(組み合わせ例)

温度・湿度・日照センサー + 土壌水分・土壌温度センサー

葉面温度・葉面湿度センサー + CO2センサー

【出典】ベジタリア株式会社 <http://www.vegetalia.co.jp/user-solutions/for-feldservers/>

2.6. ビジネス演習教材（PBL）開発

2.6.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、ビジネス演習科目群を構成する科目として、PBL（Project Based Learning）学習を取り入れる。当該科目では、実際に新規事業の計画立案を行うというプロジェクトを実践する形式で行う。

昨年度は、この科目で使用する教材を試作し、教材の枠組みを整えた。今年度はそれをもとに実際に授業において使用できる質の PBL 教材の開発を行った。

2.6.2. 教材構成

今年度開発した PBL 教材は、受講者たちが実際に自分のビジネスの企画提案を行う前に事業計画書を書くまでのプロセスを学ぶことを重視している。したがって、PBL の進行においては講師による講義部分も多い講師主導型の形式をとっているが、学生のグループワーク及び発表も多く時間を用意している。テーマとしては「既存の翻訳機・翻訳サービスを活用した新規事業」と設定した。

PBL 教材は 4 つのステージから構成される。ステージ 1 は「着想・発想」で、新規事業のアイデアを出すことを目的としている。ステージ 2 は「基本構想」で、事業のコンセプトを固めるためのプロセスを踏む。ステージ 3 は「計画立案」で、事業の環境を分析し、事業計画を立て、クラウドファンディングの計画を立てる。最後のステージ 4 は「計画書作成」であり、事業計画書を項目ごとに記載していく。これらのプロセスを体験することによって、新規事業を起こす際に計画書作成までどのようなことをするべきなのかを理解することができる。

ここでは PBL 教材の一部を例として紹介し、その全体は巻末付録に掲載する。

ステージ1 着想・発想（アイディア）

(1) ビジネス環境の理解

①-2 訪日外国人観光客の増加

・資料2 日本政策投資銀行

新型コロナ終息後のインバウンド動向



日本政策投資銀行

<https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/c620533638f1c41f4a20912dfa690dd5.pdf>

・アジア8ヶ国・地域と欧米豪4ヶ国の計12ヶ国・地域を対象とした調査

【質問項目】新型コロナ終息後に観光旅行したい国・地域

アジア全体

日本 56%

韓国 30%

台湾 23%

欧米豪全体

アメリカ 28%

日本 24%

カナダ 20%

※ここでは上位3ヶ国のみ表示。詳細は上記リンク先の資料16頁を参照。

◎アジア居住者からの人気は大差をつけて1位、欧米豪居住者からは1位に僅差の2位

ステージ2 基本構想（コンセプト）

(1) 情報収集と整理

② 競合サービス



名称				
サービス内容				
値段				
その他				

2.7. ビジネス日本語／英語教材開発

2.7.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、日本または世界でビジネスをするために必要な日本語能力及び英語能力を身につけるための「ビジネス日本語／ビジネス英語」系科目を取り入れる。その中では、ビジネス日本語やビジネス英語を使った会話の授業や文書作成といった授業だけではなく、ビジネス分野に特化した文章や専門用語を読んで学習する内容の授業科目を設置する。そのような科目の中のひとつとして経営戦略に関する専門用語とそれを含めた文章を読んで意味を理解する「経営戦略マネジメント」という科目を提供する。

今年度は、この「経営戦略マネジメント」の教材開発とeラーニングコンテンツ化及びeラーニングへの実装を行った。

2.7.2. 教材構成

「経営戦略マネジメント」の学習内容を確定するにあたっては、独立行政法人情報処理推進機構の試験「IT パスポート」のストラテジ分野の内容を参考とした。これは、本事業で開発する教育プログラムが、先端技術を活用したビジネスの起業家養成を目的としているため、ビジネス分野の学習内容であってもIT分野と親和性の高いものを選択することが合理的だからである。また、本科目を学ぶことによって、「IT パスポート」試験受験や合格への意欲を喚起することで、社会人として必須となるITリテラシーの向上に寄与する。

教材の開発においては、公式ウェブサイト上で公開されている「IT パスポート」のシラバス内にある「用語例」を抽出し、その用語を使用した文章を作成した。さらに、その文章から空欄補充方式の問題を作成し、経営戦略分野の重要語を学んだうえでその知識を確認できるようにした。さらに、同内容の英語の文章を作成し、日本語でも英語でも同じ分野の学習を行うことができるようにした。なお、「経営戦略マネジメント」で扱うテーマの一覧は以下のようにになっている。

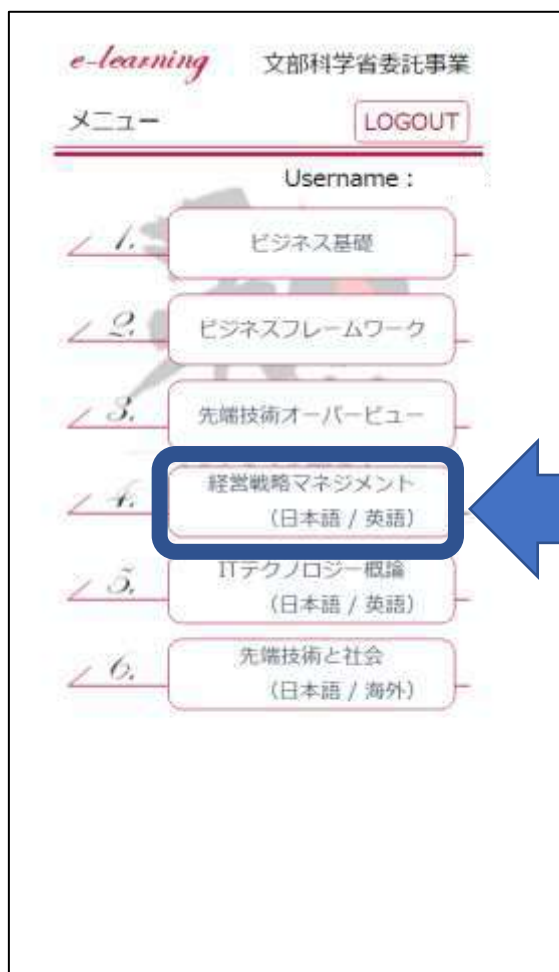
<経営戦略マネジメント テーマ一覧>

1. 経営情報分析手法
2. 経営戦略に関する用語(1)
3. 経営戦略に関する用語(2)

4. 経営戦略に関する用語(3)
5. 経営戦略に関する用語(4)
6. マーケティングの基礎(1)
7. マーケティングの基礎(2)
8. マーケティングの基礎(3)
9. マーケティングの基礎(4)
10. マーケティング手法
11. Web マーケティング
12. 価格設定方法
13. ビジネス戦略立案及び評価のための情報分析手法
14. 経営管理システム(1)
15. 経営管理システム(2)

本教材は e ラーニングコンテンツ化を行い、今年度開発した本事業の e ラーニングシステムに実装している。次頁から使用方法について図を用いて説明する。

<e ラーニングシステム メニュー画面>



「経営戦略マネジメント (日本語／
英語)」をクリックする

<「経営戦略マネジメント」メニュー画面>



興味のあるテーマの「日本語」または「英語」をクリックする（ここでは例として「日本語」をクリックする）

<「経営情報分析手段」 画面①>

e-learning 文部科学省委託事業

経営戦略マネジメント [戻る](#)

経営情報分析手法

(1 / 1)

経営戦略における情報活用のために、以下のような手法が活用されています。**【01】**は、組織や個人のプロジェクトやベンチャービジネスにおいて、**【02】**や**【03】**を、強み・弱み・機会・脅威という4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る手法です。**【04】**は、市場成長率と市場占有率という2つの軸で4つの象限に区分し、自社の事業や商品・サービスがどの象限に位置するかを分析し、事業ごとの方向性と経営資源配分のウェイト付けを行う手法です。**【05】**は、企業内部に存在

赤字の数字によって用語が
空欄になっている文章が表示される

<「経営情報分析手段」 画面②>

法です。【05】は、企業内部に存在する経営資源を、価値、希少性、模倣可能性、組織という4つの視点から評価することによって、競争優位性の維持やさらなる向上に向けた効果的な施策を講じる手法です。 【06】とは、企業のマーケティングなどにおいて、顧客、競合、自社という3つの観点から市場環境を分析し、経営戦略上の課題を導く分析手法です。 【01】 【VRIO分析】 【02】 【VRIO分析】 【03】 【VRIO分析】 【04】 【VRIO分析】 【05】 【VRIO分析】 【06】 【VRIO分析】 選択してください。 解答する	法です。【05】は、企業内部に存在する経営資源を、価値、希少性、模倣可能性、組織という4つの視点から評価することによって、競争優位性の維持やさらなる向上に向けた効果的な施策を講じる手法です。 【06】とは、企業のマーケティングなどにおいて、顧客、競合、自社という3つの観点から市場環境を分析し、経営戦略上の課題を導く分析手法です。 【01】 【VRIO分析】 【02】 【VRIO分析】 【03】 【PPM分析】 【04】 【SWOT分析】 【05】 【外部環境】 【06】 【3C分析】 選択してください。 解答する
---	--

赤字の数字を埋める正しい用語はプルダウンメニューから選択することが
できる。すべての選択が終わったら画面下部の「解答する」をク
リックする。

2.8.IT 日本語／英語教材開発

2.8.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、先端技術を題材とする文脈理解に必要な IT 分野に特化した日本語及び英語の科目を取り入れる。そのような科目の中のひとつとして IT の技術に関わる専門用語とそれを含めた文章を読んで意味を理解する「IT テクノロジー概論」という科目を提供する。

今年度は、この「IT テクノロジー概論」の教材開発と e ラーニングコンテンツ化及び e ラーニングへの実装を行った。

2.8.2. 教材構成

「IT テクノロジー概論」の学習内容を確定するにあたっては、独立行政法人情報処理推進機構の試験「IT パスポート」のテクノロジー分野の内容を参考とした。これは、本事業で開発する教育プログラムが、先端技術を活用したビジネスの起業家養成を目的としているため、一定水準の IT 技術に関する知識が要求されるからである。「IT パスポート」は「IT を利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、IT に関する基礎的な知識が証明できる」とされ、本科目を学ぶことによって、「IT パスポート」試験受験や合格への意欲を喚起することで、社会人として必須となる IT リテラシーの向上に寄与する。

教材の開発においては、公式ウェブサイト上で公開されている「IT パスポート」のシラバス内にある「用語例」を抽出し、その用語を使用した文章を作成した。さらに、その文章から空欄補充方式の問題を作成し、経営戦略分野の重要語を学んだうえでその知識を確認できるようにした。さらに、同内容の英語の文章を作成し、日本語でも英語でも同じ分野の学習を行うことができるようにした。なお、「IT テクノロジー概論」で扱うテーマの一覧は以下のようにになっている。

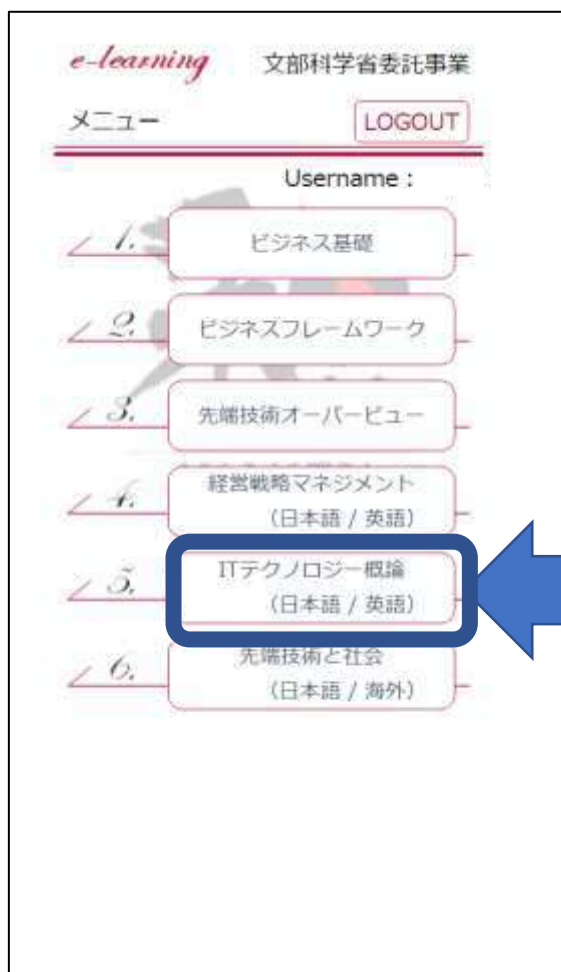
<経営戦略マネジメント テーマ一覧>

1. 基礎理論 応用数学
2. 基礎理論 情報に関する理論
3. アルゴリズムとプログラミング データ構造

4. アルゴリズムとプログラミング その他の言語
5. コンピュータ構成要素 プロセッサ
6. コンピュータ構成要素 メモリ
7. コンピュータ構成要素 入出力デバイス
8. システム構成要素 システムの構成
9. システム構成要素 システムの評価指標
10. ソフトウェア ファイルシステム
11. ハードウェア ハードウェア
12. ヒューマンインタフェース ヒューマンインタフェース技術
13. ヒューマンインタフェース インタフェース設計
14. マルチメディア マルチメディア技術
15. マルチメディア マルチメディア応用
16. データベース データベース方式
17. データベース データベース設計
18. データベース トランザクション処理
19. ネットワーク ネットワーク方式
20. ネットワーク 通信プロトコル
21. ネットワーク ネットワーク応用
22. セキュリティ 情報セキュリティ
23. セキュリティ 情報セキュリティ管理
24. セキュリティ 情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術

本教材は e ラーニングコンテンツ化を行い、今年度開発した本事業の e ラーニングシステムに実装している。次頁から使用方法について図を用いて説明する。

<e ラーニングシステム メニュー画面>



「IT テクノロジー概論（日本語／英語）」をクリックする

< 「IT テクノロジー概論」 メニュー画面 >



興味のあるテーマの「日本語」または「英語」をクリックする（ここでは例として「日本語」をクリックする）

<「基礎理論 応用数学」 画面①>

e-learning 文部科学省委託事業

ITテクノロジー概論 戻る

基礎理論
応用数学
(1 / 2)

データの集まりの特徴を表現する方法として、データ値の総和をデータの個数で割った【01】、データ値の大きさ順に並べたとき中央の位置に来る【02】、最も出現個数の多いデータ値を【03】があります。個々のデータと平均値の差を偏差といますが、データの散らばりを表現する方法として、偏差の二乗の平均値を【04】、その平方根を【05】と呼びます。標準偏差によってデータの散らばり具合が表現されます。データの標準偏差を一律10とし、50とした平均からどれだけ離れているかを示す値が【06】です。

赤字の数字によって用語が
空欄になっている文章が表示される

<「基礎理論 応用数学」 画面②>

【08】と言い、増減の傾向の強さを表します。二つのデータ的一方から他方の将来的な値を予測する式を求めることを【09】といい、前者を【10】、後者を【11】と呼びます。

【01】 【最頻値】 ▼

【02】 【最頻値】 ▼

【03】 【最頻値】 ▼

【04】 【最頻値】 ▼

【05】 【最頻値】 ▼

【06】 【最頻値】 ▼

【07】 【最頻値】 ▼

【08】 【最頻値】 ▼

【09】 【最頻値】 ▼

【10】 【最頻値】 ▼

【11】 【最頻値】 ▼

選択してください。

解答する

【08】と言い、増減の傾向の強さを表します。二つのデータ的一方から他方の将来的な値を予測する式を求めることを【09】といい、前者を【10】、後者を【11】と呼びます。

【01】 【最頻値】 ▼

【02】 【最頻値】 ▼

【03】 【相関係数】

【04】 【回帰分析】

【05】 【標準偏差】

【06】 【偏差値】

【07】 【説明変数】

【08】 【分散】

【09】 【中央値】

【10】 【目的変数】

【11】 【平均値】

【相関分析】

【最頻値】 ▼

選択してください。

解答する

赤字の数字を埋める正しい用語はプルダウンメニューから選択することが
できる。すべての選択が終わったら画面下部の「解答する」をク
リックする。

2.9.日本／海外文化社会教材開発

2.9.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、言語・文化・社会科目群を構成する科目として、日本も含めたグローバルな市場ニーズや価値観を把握するために日本や海外の文化及び社会を学ぶ科目「日本／海外文化社会」を取り入れる。その中でも、日本と海外において先端技術の社会への導入状況や国の産業政策などを学ぶ「先端技術と社会」の教材を提供する。

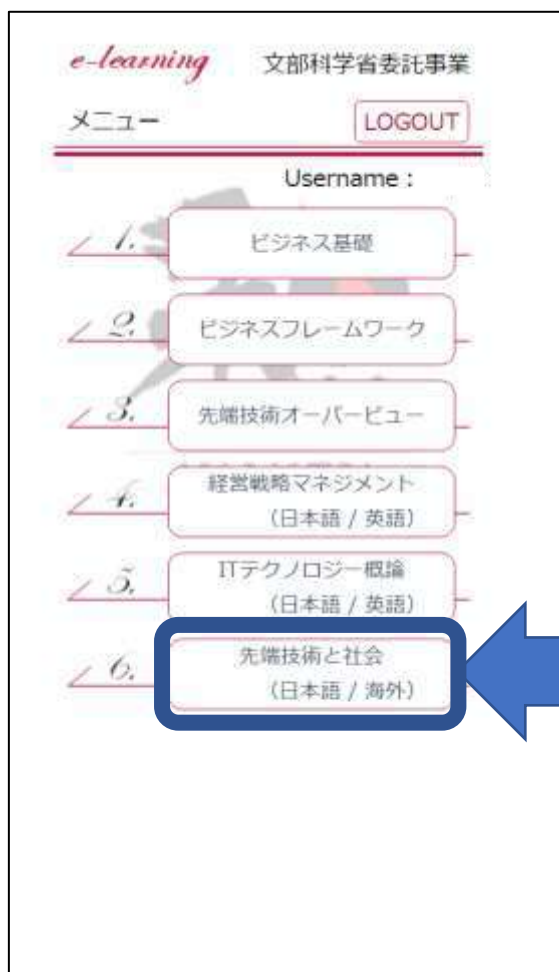
今年度は、この「先端技術と社会」の教材開発と e ラーニングコンテンツ化及び e ラーニングへの実装を行った。

2.9.2. 教材構成

各テーマに対して読解教材と確認テストを開発した。読解教材は、テーマに関する内容について記載された 800 字程度の文章で、日本またはベトナムの先端技術と社会のかかわりについてなどが記述されている。確認テストは、読解教材を読んだ後の理解度をチェックするための問題となっており、多肢選択式の問題が各テーマ 2 問ずつ用意されている。

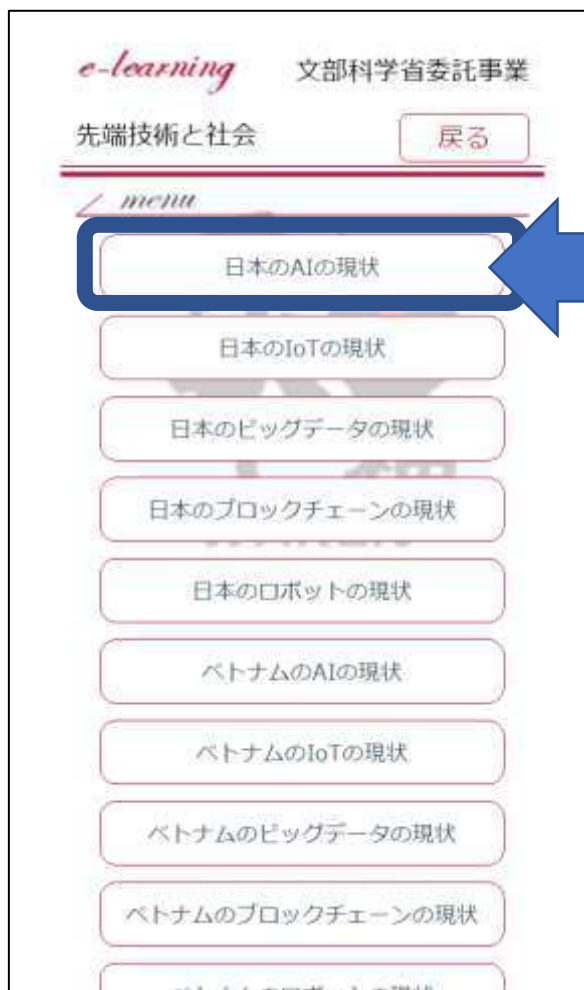
これらの教材は e ラーニングコンテンツ化を行っており、今年度開発した e ラーニングシステムに実装した。次頁から使用方法について図を用いて説明する。

<e ラーニングシステム メニュー画面>



「先端技術と社会」をクリックする

<「先端技術と社会」 メニュー画面>



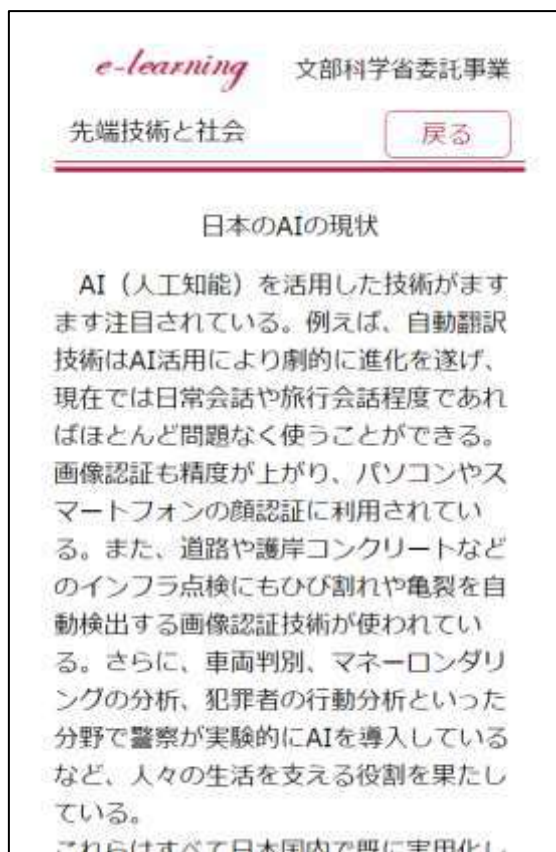
興味のあるテーマをクリックする

<「日本の AI の現状」 メニュー画面>



「学習」をクリックすると読解教材のページに移動

<読解教材のページ>



<「日本の AI の現状」 メニュー画面>



「問題」をクリックすると確認テスト
のページに移動

<確認テストのページ>

A	1位
B	4位
C	6位

3. 実証講座

- 3.1. 実証講座概要
- 3.2. 実証講座実施校
- 3.3. 受講者アンケート
- 3.4. 実証講座まとめ

3.1.実証講座概要

今年度の取り組みとして「Society5.0 対応グローバルビジネス起業型人材育成プログラム開発事業」の実証講座を実施した。概要は以下の表に記す。

講座名	Society5.0 対応グローバルビジネス起業型人材育成プログラム開発事業 令和 2 年度実証講座
目的	本事業において開発した PBL 教材を実際に運用することで、効果を検証する。
対象	日本人学生（専門学校那覇日経ビジネス） 外国人留学生（宮崎情報ビジネス医療専門学校、千葉情報経理専門学校）
人数	合計 15 名程度
授業回数	全 5 回
日時	専門学校那覇日経ビジネス 宮崎情報ビジネス医療専門学校 11/9、11/11、11/13、11/16、11/18 の 13:30-16:30 千葉情報経理専門学校 11/9 の 13:30-15:00 11/11、11/13、11/16、11/18 の 11:00-12:30、13:00-15:00 11/19 の 11:00-12:30 (13:30-15:00 まで次の日程の 11:00-12:30 を合わせて 1 回と換算)
講座内容	新規事業立案 PBL ・目的：講師主導型の授業で、新規ビジネスの立案プロセスを学ぶ ・中心的課題：事業計画の立案 ・テーマ：「翻訳機を活用した新規ビジネス計画案」 ・実施時間：全 15 時間
講座形式	講義とグループワーク、発表
実施形式	ZOOM によるオンラインでの 3 校の同時授業

3.2.実証講座実施校

今年度の実証講座は、日経教育グループ専門学校那覇日経ビジネス、学校法人宮崎総合学園宮崎情報ビジネス医療専門学校、学校法人秋葉学園千葉情報経理専門学校の 3 校で行った。WEB 会議システムの ZOOM を活用し、3 校同時に授業を行う形式で実証講座にご参加いただいた。



3.2.1. 日経教育グループ 専門学校那覇日経ビジネス

日時	2020 年 11 月 9 日（月） 13:30~16:30 11 日（水） 13:30~16:30 13 日（金） 13:30~16:30 16 日（月） 13:30~16:30 18 日（水） 13:30~16:30
受講者	日本人学生：5 名 所属：キャリアビジネス科 5 名



3.2.2. 学校法人宮崎総合学園 宮崎情報ビジネス医療専門学校

日時	2020 年 11 月 9 日（月） 13:30~16:30 11 日（水） 13:30~16:30 13 日（金） 13:30~16:30 16 日（月） 13:30~16:30 18 日（水） 13:30~16:30
受講者	外国人留学生：5 名 （キルギス、ベトナム、中国、韓国、インド 各 1 名） 所属：情報システム科 1 名 日本語科 1 名 総合ビジネス科 1 名 国際ビジネス科 2 名



3.2.3. 学校法人秋葉学園 千葉情報経理専門学校

日時	2020 年 11 月 9 日（月） 13:30~15:00 11 日（水） 11:00~12:30 13:30~15:00 13 日（金） 11:00~12:30 13:30~15:00 16 日（月） 11:00~12:30 13:30~15:00 18 日（水） 11:00~12:30 13:30~15:00 19 日（木） 11:00~12:30
受講者	外国人留学生：5 名 （中国 3 名、ネパール 2 名） 所属：WEB エキスパート学科 1 名 国際戦略経営学科 4 名



3.3.受講者アンケート

実証講座の効果を測定する手段として、受講者からのフィードバックを集めるために、講座終了後にアンケートを記入していただいた。アンケートの項目とその結果を以下に記載する。

3.3.1. 第1回実証講座 受講者アンケート

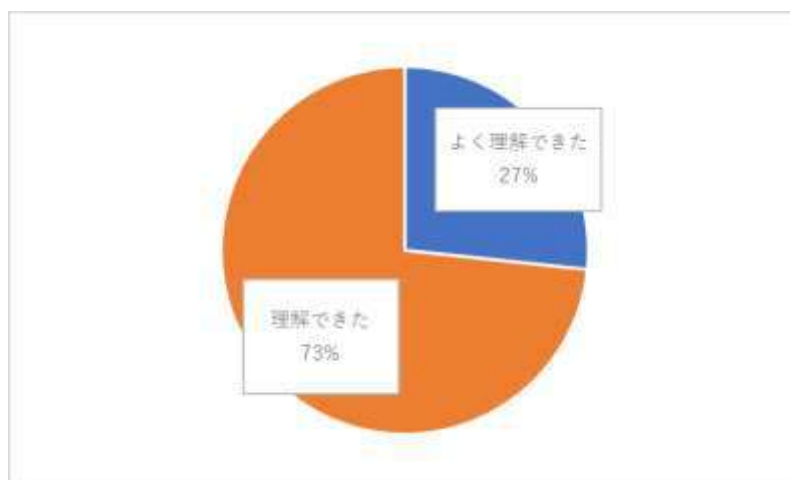
①本日の講座の内容は全体的に理解できましたか。

よく理解できた

理解できた

あまり理解できなかった

まったく理解できなかった



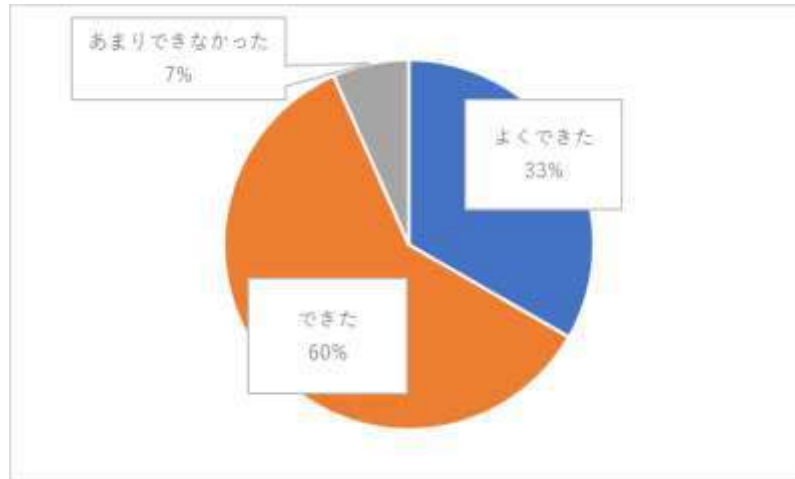
②「ビジネス環境の理解」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



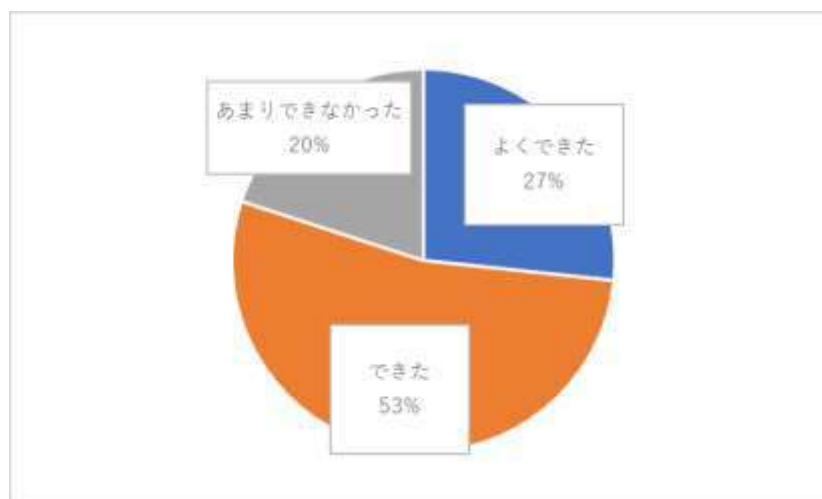
③「アイデアの抽出」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



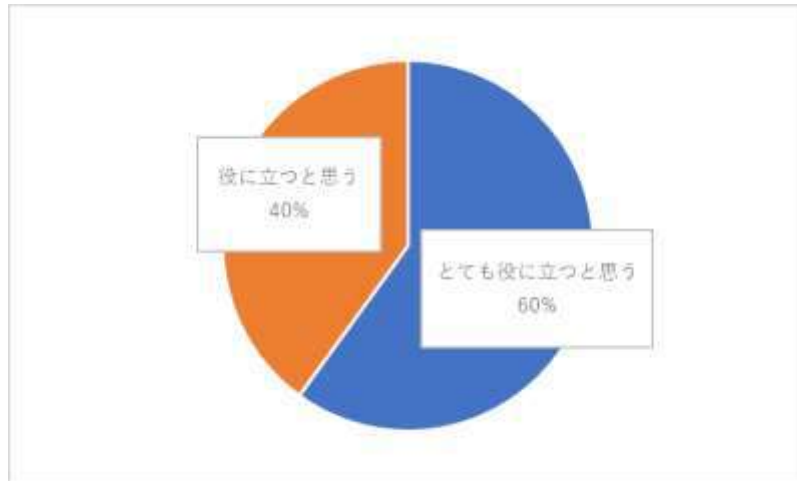
④本日の講座の内容は、新しいビジネスのアイデアを
考える方法を知るのに役に立つと思いますか。

とても役に立つと思う

役に立つと思う

あまり役に立たないと思う

まったく役に立たないと思う



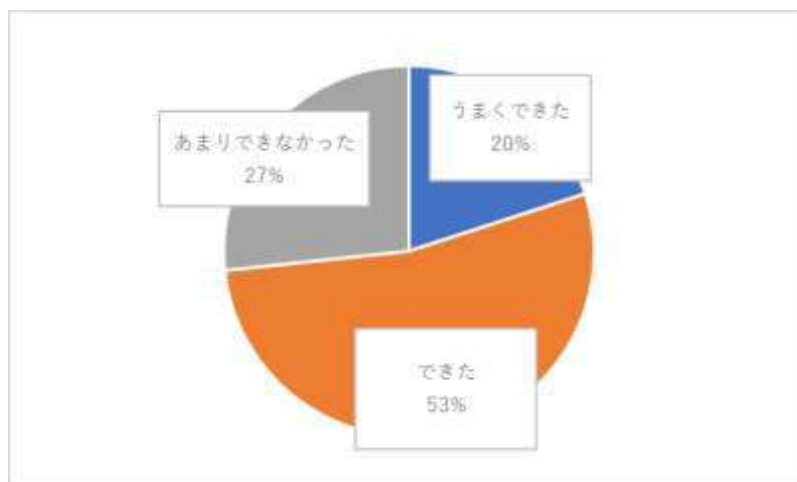
⑤グループワークはうまくできましたか。

うまくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



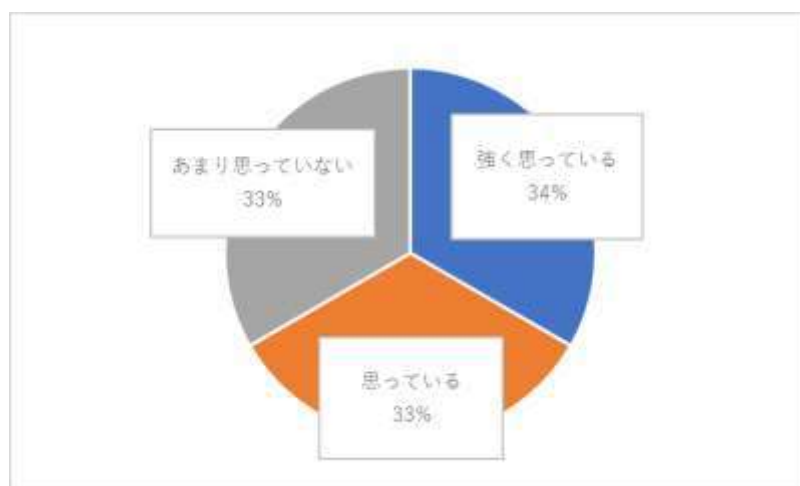
⑥起業をしたいと思っていますか。

強く思っている

思っている

あまり思っていない

まったく思っていない



⑦今日の講座について、ご意見ご感想を自由にご記入ください。

- ・いろいろなアイデアを聞くことができ、自分が知っている範囲外のことも聞くことができよかったと思います。グループワークができない人がいたことで少し残念でした。
- ・アイデアが瞬間的に思いつけなかったのもっと時間がほしい。もし時間が長かったらみんなもっとたくさんの意見出るかもしれません。
- ・勉強になりました。
- ・グループの人たちから色々なビジネス環境の意見を聞く体験をできました。みんなが熱心に自分の意見を話したり、聞いたりすることがとても楽しかったです。
- ・とても勉強になりました。特に社会への意義というのはとてもいいことだと思います。世界的に認められたサービスを提供できるのはそれが理由だと思います。
- ・大丈夫です。
- ・特にありません。
- ・クラスより人数が少なくてきちんと集中できるので自分の意見をうまく言うことができました。このような雰囲気がいいと思います。
- ・PBLの授業ははじめて受けて自由な発想ができた。いろいろな考え方を勉強できてとても役に立つと思う。自分の日本語はあまりうまくないから会話がしにくかった。
- ・このような講座に初めて参加しましたから、面白かったです。

- ・マスク着用だったため声が通りづらい部分がありました。日頃関わることのない留学生の方々の話をもっと聞き、理解を深めたいと思います。
- ・講座を通して、グループワークについて学び様々な意見を知ることができたので面白かったです。
- ・とても勉強になりました。少しだけ難しく感じる場所もあったので、もっと勉強します。
- ・オンライン講座ということもあって声を聞き取りにくい場面がありました。灌漑の方の意見を聞けるのはとても貴重な経験になりました。
- ・外国からの日本の状況やコロナ収束後、英語についての能力の低さをデータで見ることができて新しい発見があった。グループでの意見交換では、面白いものがたくさんあって楽しかったです。

3.3.2. 第2回実証講座 受講者アンケート

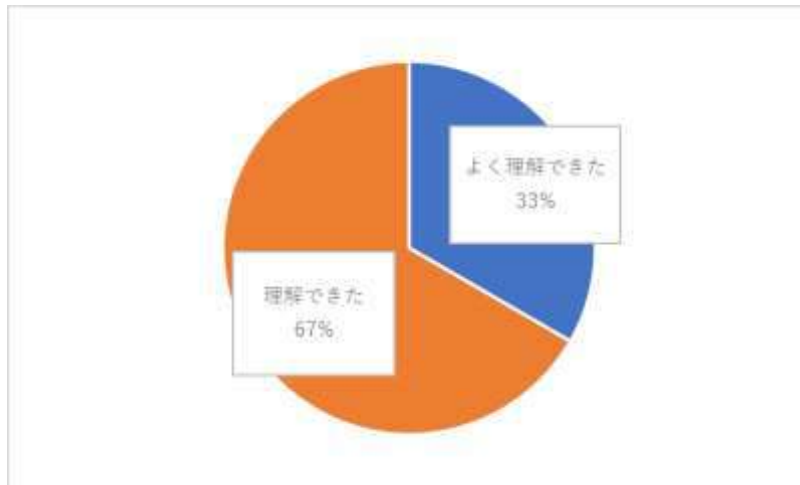
①本日の講座の内容は全体的に理解できましたか。

よく理解できた

理解できた

あまり理解できなかった

まったく理解できなかった



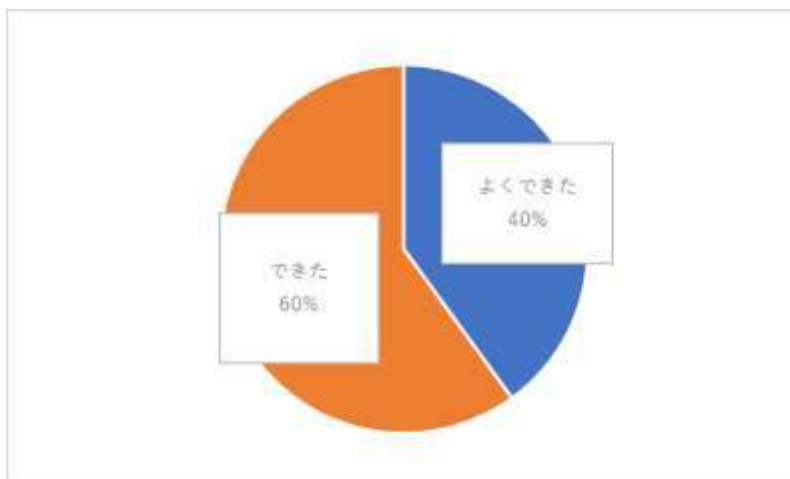
②「アイディアシートの作成」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



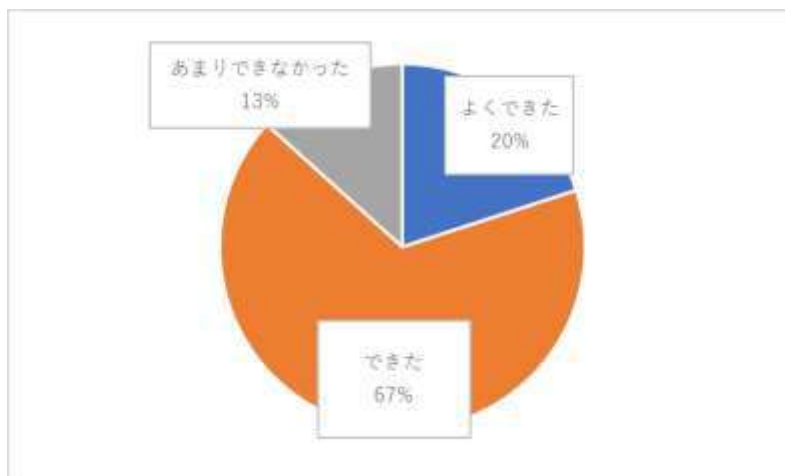
③「アイディアの評価」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



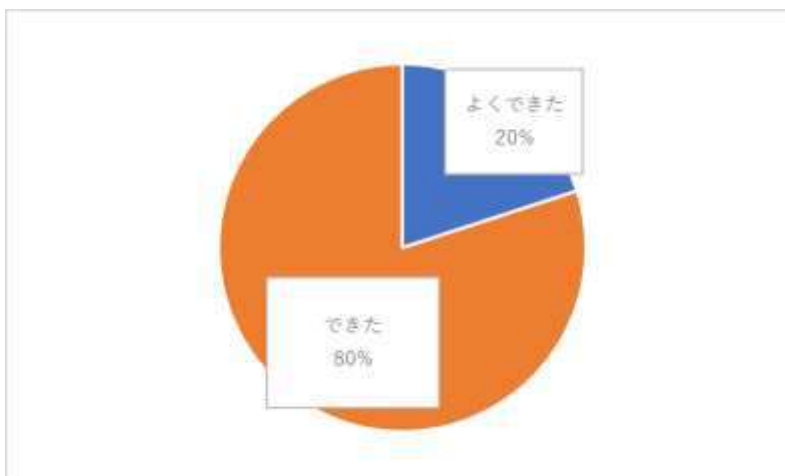
④「情報収集と整理」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



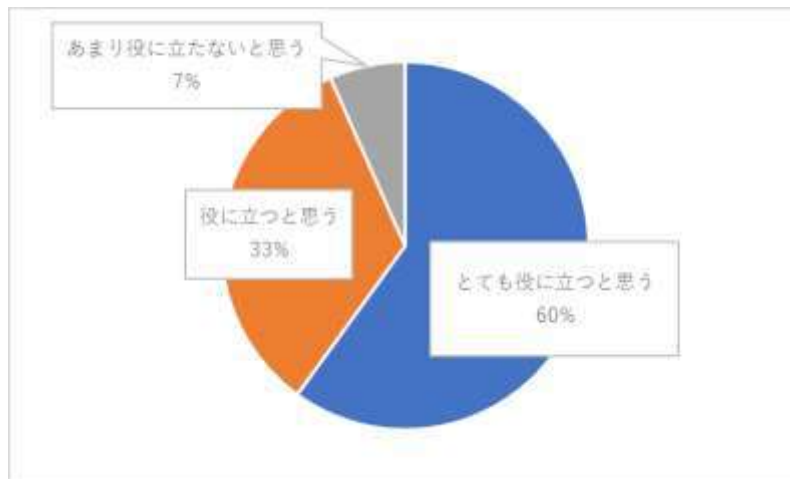
⑤本日の講座の内容は、新しいビジネスのアイデアを
考える方法を知るのに役に立つと思いますか。

とても役に立つと思う

役に立つと思う

あまり役に立たないと思う

まったく役に立たないと思う



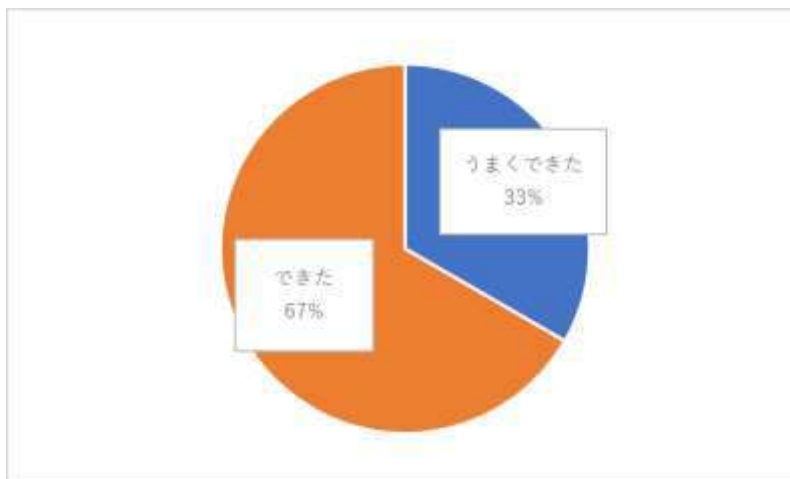
⑥グループワークはうまくできましたか。

うまくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



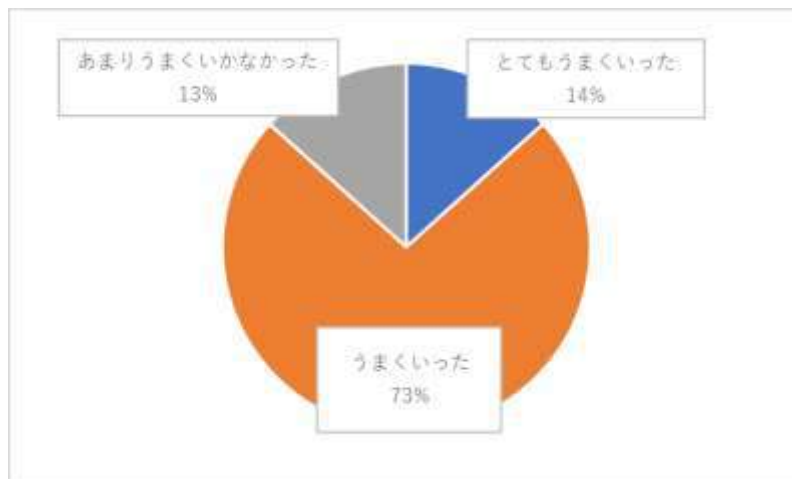
⑦グループの発表はうまくいきましたか。

とてもうまくいった

うまくいった

あまりうまくいかなかった

まったくうまくいかなかった



⑧本日の講座について、ご意見ご感想を自由にご記入ください。

- ・全体的に良かったと思います。
- ・グループでみんなと発表することがとても勉強になりました。この後もたくさん参加したいです。
- ・みなさんのいろいろな意見を聞くのは楽しかったです。
- ・勉強になりました。
- ・アイデアを考えるとときいろいろなことを調べなければならないということが分かりました。とても勉強になりました。
- ・大丈夫です。
- ・いろいろな情報を調べた後に、それをまとめました。役に立つと思います。
- ・勉強になりました。
- ・特になし
- ・翻訳機の競合を知れたのですごく勉強になりました。次の授業に活かせるように、日常的にいろいろ考えていきたいと思います。
- ・資料と、みんなの様子が見られる画面が分かれていてとても見やすかったです。音声も前回より聞き取りやすくなっていました。改善ありがとうございました。
- ・グループワークの際にお互い意見が聞けてクーポンの考えは出て居なかったので参考になりました。ネットで調べるときにより自分たちがよい情報を求めている必要なものを判断するのはとても大事なことで、整理しやすいようにまとめる力も必要になってくる！

- ・文化が違くと発想は全く別のものになるのかと思っていましたが、同じような意見が多かったのでとてもすごいと思いました。テーマが決められているため深掘りはできませんでしたが時間があれば機能の話まで進めてみたいです。
- ・グループワークを通して概要から関連情報を記入するのははじめてだったのですが、項目ごとに整理することにより、自分たちの考えをより具体的に伝えることができました。

3.3.3. 第3回実証講座 受講者アンケート

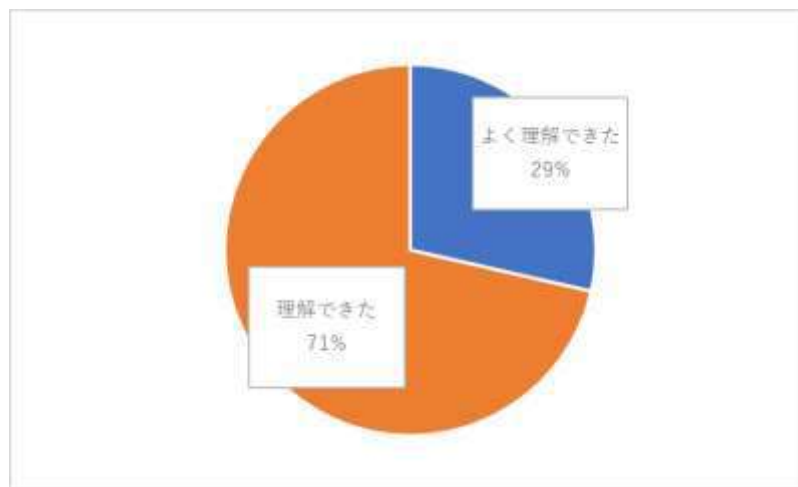
①本日の講座の内容は全体的に理解できましたか。

よく理解できた

理解できた

あまり理解できなかった

まったく理解できなかった



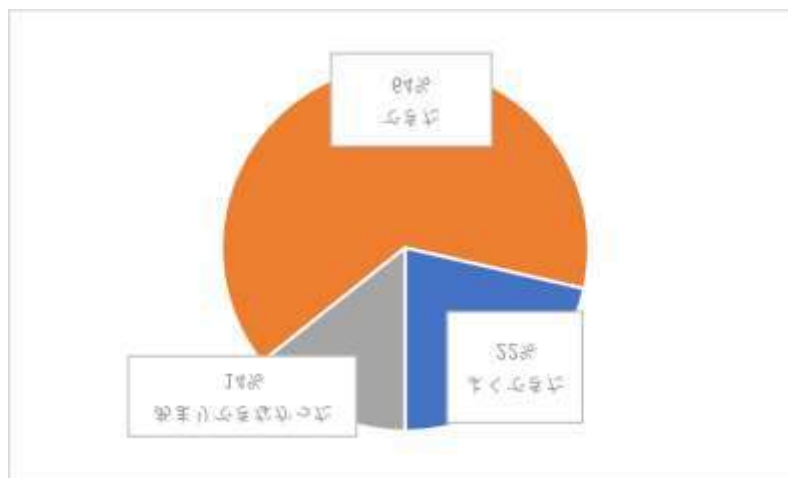
②「ビジョン」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



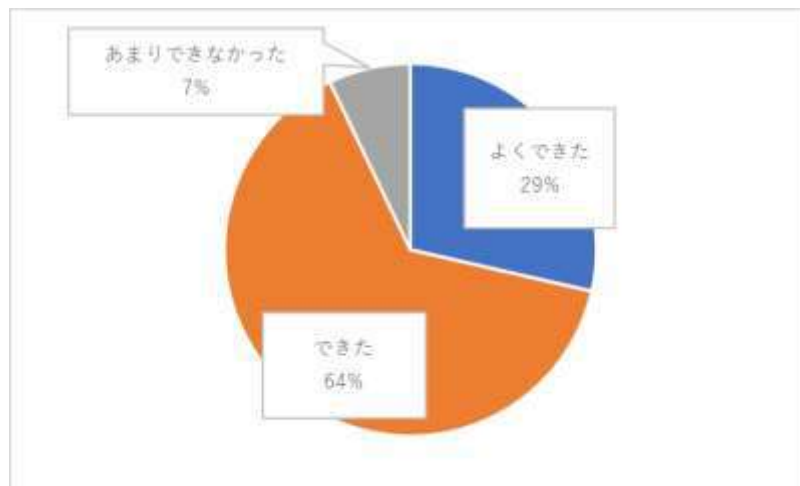
③「コンセプトシートの作成」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



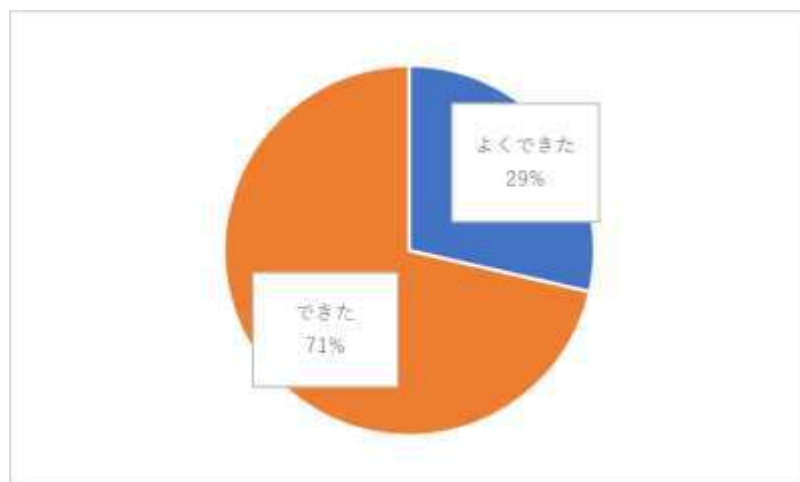
④「コンセプトの評価」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



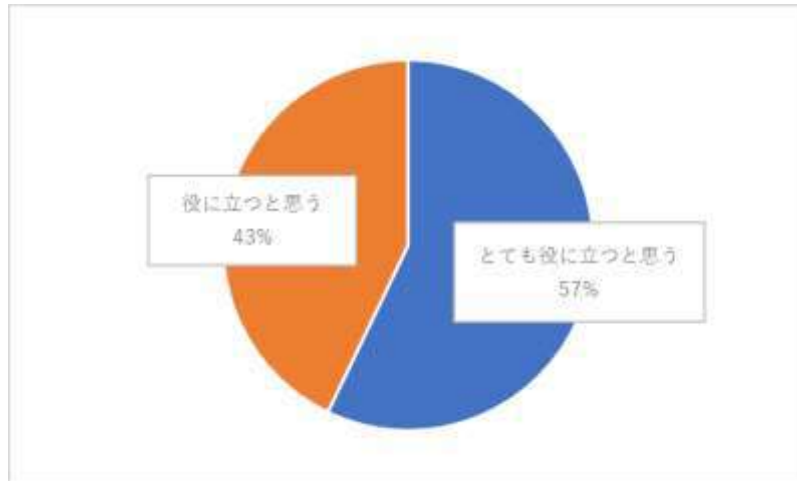
⑤本日の講座の内容は、新しいビジネスのアイデアを
考える方法を知るのに役に立つと思いますか。

とても役に立つと思う

役に立つと思う

あまり役に立たないと思う

まったく役に立たないと思う



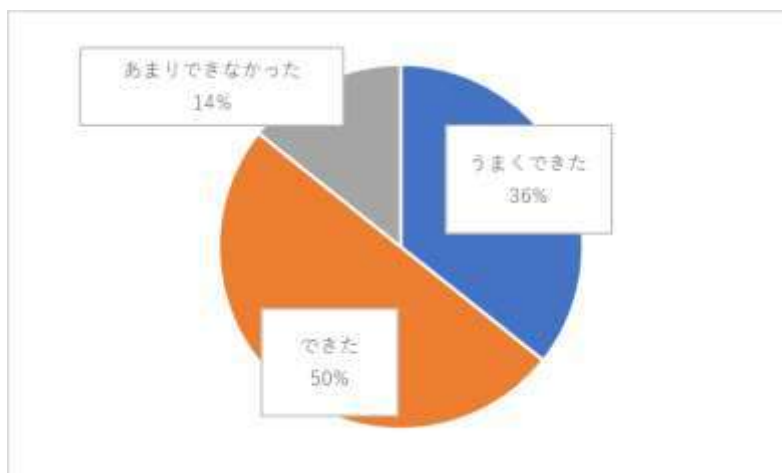
⑥グループワークはうまくできましたか。

うまくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



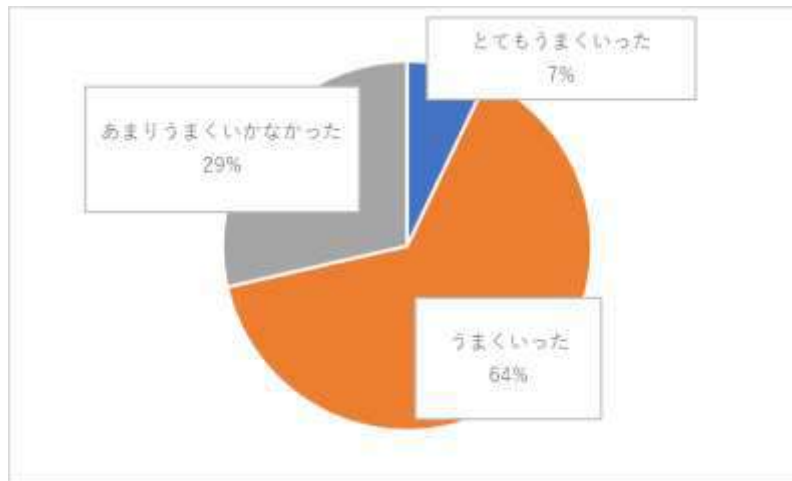
⑦グループの発表はうまくいきましたか。

とてもうまくいった

うまくいった

あまりうまくいかなかった

まったくうまくいかなかった



⑧本日の講座について、ご意見ご感想を自由にご記入ください。

- ・ますます面白くなってきました。
- ・今日初めてみんなの前で発表したことがとてもいい体験だったと思います。
- ・ネットの問題がありましたのでよく聞こえなかった。
- ・前より面白くなってきて、納得できました。
- ・とても勉強になりました。
- ・今日の講座でコンセプトについて学習し、前回よりも細かい数字を使って話し合いをすることができたので面白かったです。コンセプトを立てても、その内容がいいものではなく顧客に対していいものではないとうまくいかないということが分かりました。だからこそビジネスを考えるうえでそのターゲットであったり土地勘や文化的なものに目を向けることが大切だと思いました。
- ・実際に会って講義を聞いた方が理解がより深まるなど強く実感しました。講座が進むにつれて、新しいビジネスを始めようと思ったとき、今回の経験は役立つんだろうなと感じています。
- ・色々な面からコンセプトを考えるのは、いろいろな視点から自分たちの事業を見ることができると、すごくおもしろかったです。次回の SWOT 分析やポジショニングマップもとても面白そうなので楽しみです。
- ・日本と他国のビジネスの違いや考え方など様々な分野の特色を知ることができてとても面白かったです。日本から出たことはないですが、話だけでも他国を知ることとは大

切だと感じました。起業するとなるといろいろな方向から物事を見てからしっかり取り組まないといけないと感じました。

- ・コンセプトを評価するうえで、新規性・独創性といった、オリジナルや他企業との差別化をはかったり、優位性、競争力といった常にライバル視、強みを理解する力などたくさん必要で、システムというくんだりではすべてつながっているとはじめて知り、興味を持つことができた。市場を認知して、商品を販売・作成していけたらより良いと思いました。

3.3.4. 第4回実証講座 受講者アンケート

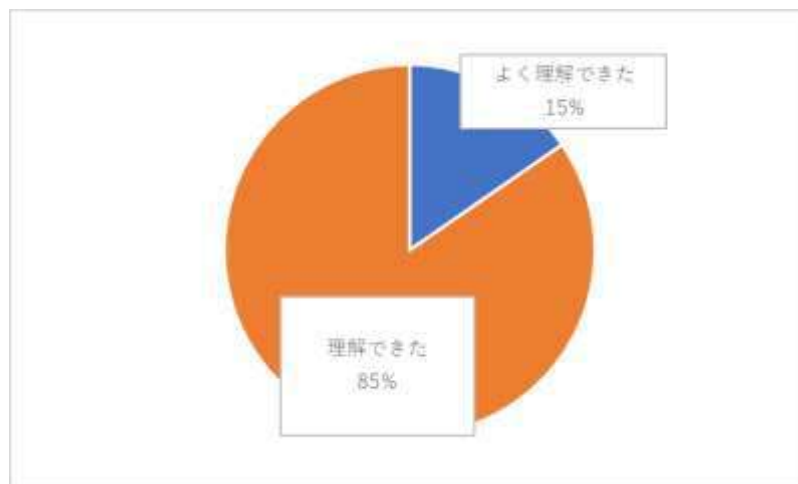
①本日の講座の内容は全体的に理解できましたか。

よく理解できた

理解できた

あまり理解できなかった

まったく理解できなかった



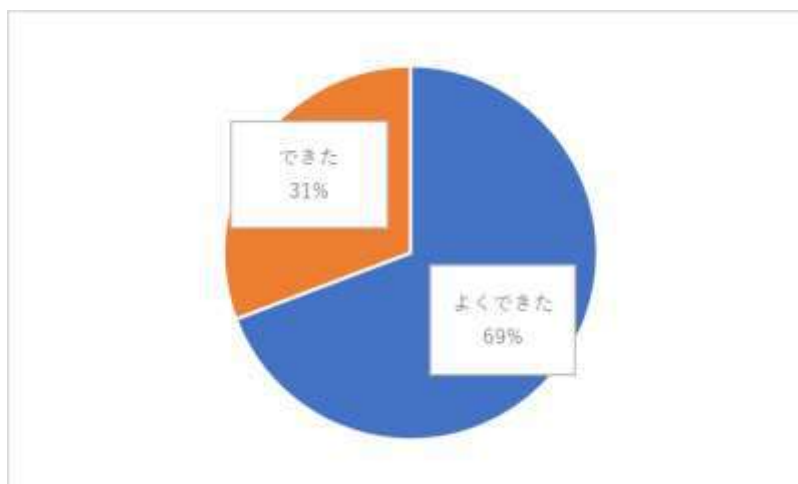
②「環境分析①SWOT 分析」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



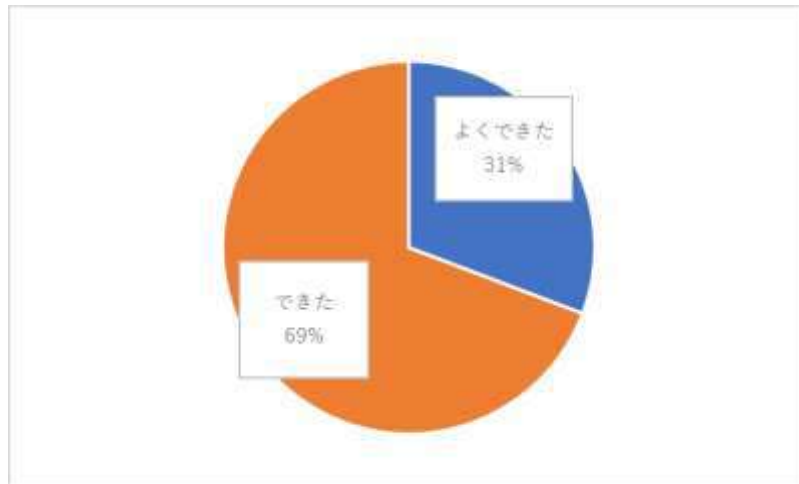
③「環境分析②ポジショニングマップ」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



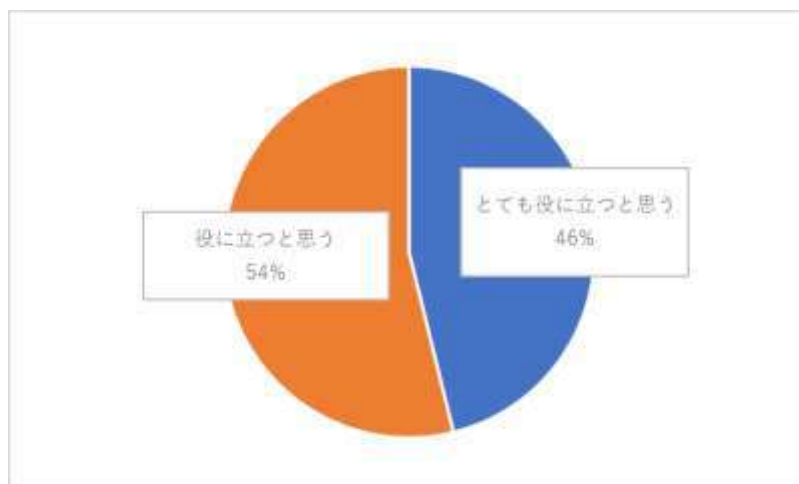
④本日の講座の内容は、新しいビジネスのアイデアを考える方法を知るのに役に立つと思いますか。

とても役に立つと思う

役に立つと思う

あまり役に立たないと思う

まったく役に立たないと思う



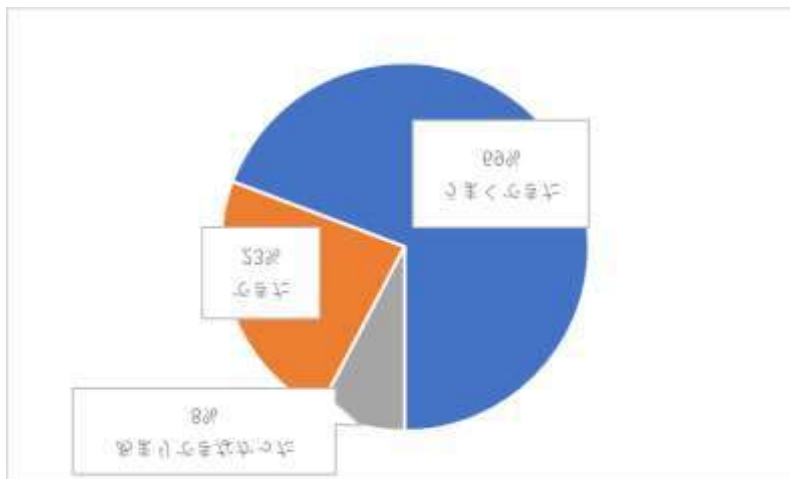
⑤グループワークはうまくできましたか。

うまくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



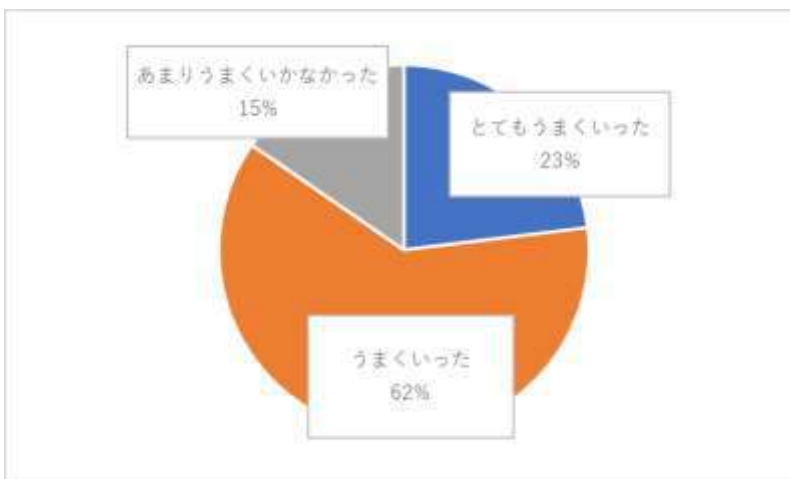
⑥グループの発表はうまくいきましたか。

とてもうまくいった

うまくいった

あまりうまくいかなかった

まったくうまくいかなかった



⑦本日の講座について、ご意見ご感想を自由にご記入ください。

- ・とても面白いです。ですが、もっと詳しくければいいと思います。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ビジネスモデルに関してもっといろいろなことを知ることができました。
- ・いろいろな意見を聞いて楽しかったです。自分も成長するように頑張ります。
- ・勉強になりました。
- ・グループワークがうまくできなかったけど、進めていくことができました。
- ・ポジショニングマップを作成する際に、自分たちの商品が有利になる配置や基準を決めることで、満足を覚えていたが、不利になる場合も考えてもう一度再検討する技術も必要なのも初めて知った。ターゲットをまた改めて確認。
- ・ポジショニングマップやビジネスモデルキャンバスを作成するのは初めてで難しい部分もありましたが、自分たちの「トラポケ」を基準に色々な商品のメリット・デメリットを知ることができました。
- ・さまざまな方法で現状を把握することが大切であり、課題などを見つけることができました。一人の頭だけでは何かを発送するのが限界があり、難しいですが、やはり周りの人と協力するといろいろ意見が出てきて面白かったです。
- ・時間がつめつめでやっていることもあって、アイディア、ビジネスの形がまだあやふやな部分が多く分析しようとしたときに戸惑うことがありました。
- ・SWOT 分析やポジショニングマップ、ビジネスモデルキャンバスを使うことで自分たちが考えた事業をよりブラッシュアップできたと思うのでとても勉強になりました。次回は最後の授業なので楽しみたいです。

3.3.5. 第5回実証講座 受講者アンケート

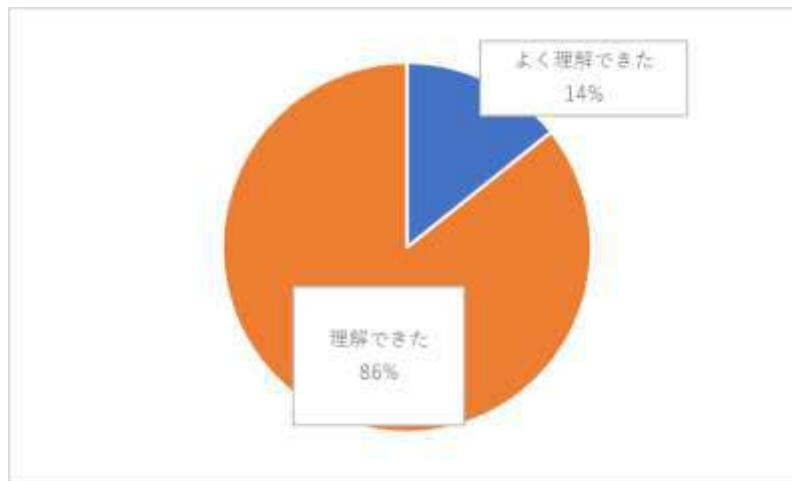
①本日の講座の内容は全体的に理解できましたか。

よく理解できた

理解できた

あまり理解できなかった

まったく理解できなかった



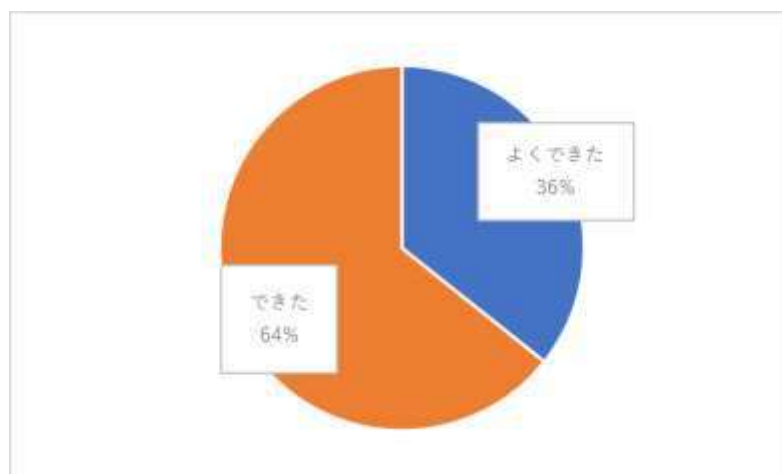
②「ビジネスモデルキャンバス」はできましたか。

よくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



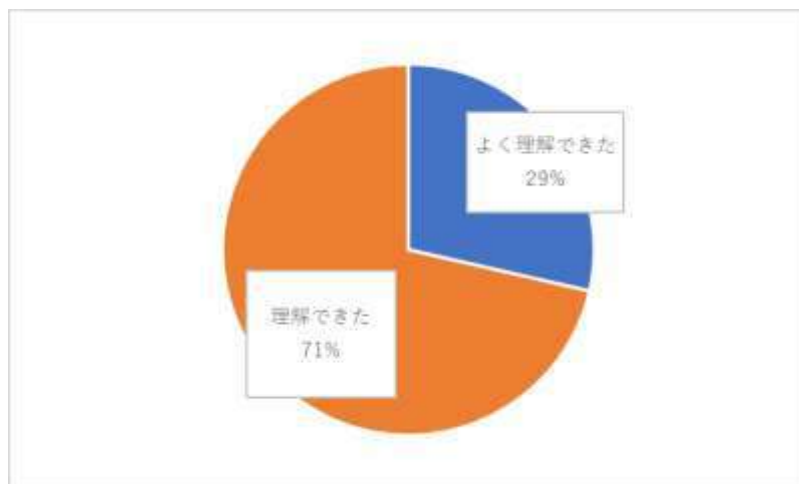
③「事業計画書の作成」は理解できましたか。

よく理解できた

理解できた

あまり理解できなかった

まったく理解できなかった



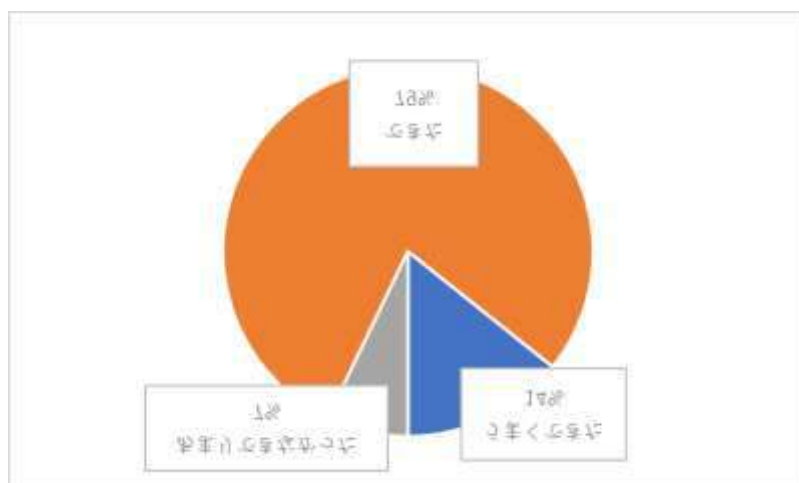
④グループワークはうまくできましたか。

うまくできた

できた

あまりできなかった

まったくできなかった



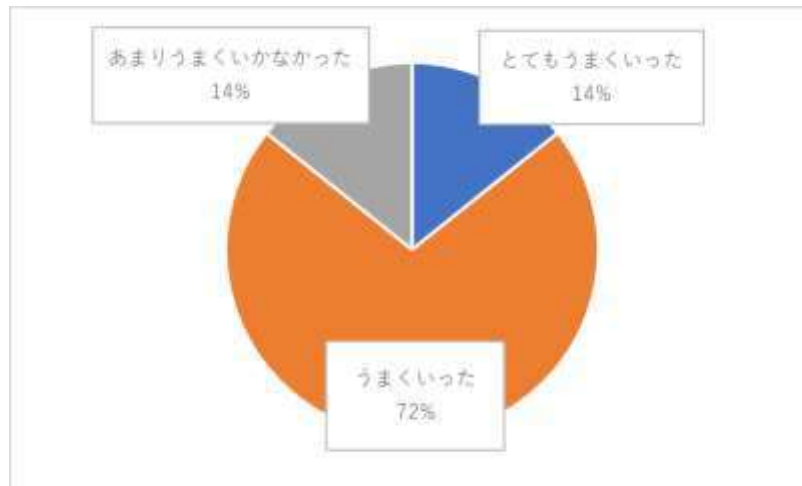
⑤グループの発表はうまくいきましたか。

とてもうまくいった

うまくいった

あまりうまくいかなかった

まったくうまくいかなかった



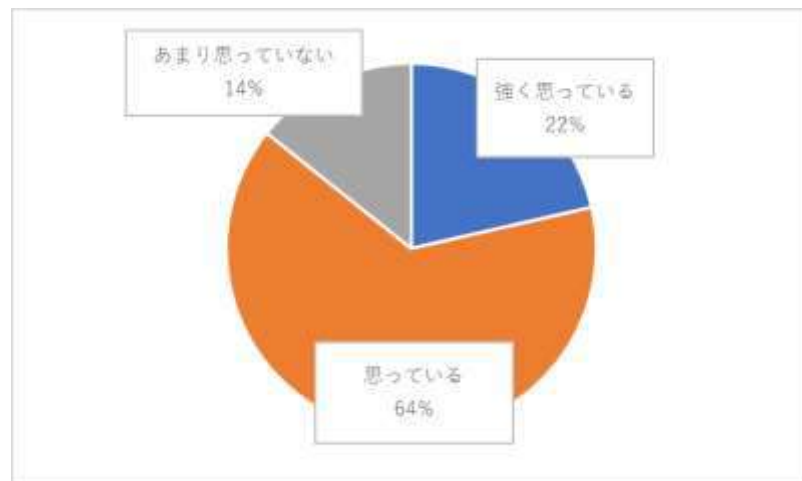
⑥起業をしたいと思っていますか。

強く思っている

思っている

あまり思っていない

まったく思っていない



⑦本日の講座について、ご意見ご感想を自由にご記入ください。

- ・2週間のプロジェクトはとても勉強になりました。これからも頑張っていきたいと思っています。
- ・勉強になりました。
- ・事業財務計画がとても大事なことを知りました。
- ・来年経営学を勉強しますので、今回の講座はとても役に立つと思います。いろいろなことを教えてもらい勉強になりました。
- ・事業の計画は想像よりも難しいことがよくわかりました。勉強になりました。
- ・起業の計画などいろいろなことを学びました。
- ・最初から最後までちゃんと勉強できました。
- ・相談の際にも社会についていろいろ聞くことができとても面白かったです。今回で個の授業の取り組みは終わりますが、何かしら役立てたいと思います。
- ・事業計画書を一緒に読み合わせする際に、具体的に数字にして表していて売り上げや経費をどのように立てるかを明確にできてわかりやすかったです。将来もし起業する際には、糧にしていけたらいいです。15時間ありがとうございました。
- ・今まで経験できなかったようなことを分析図や講師の方のお話を通じて経験できたのでとても勉強になりました。これからの人生に活かしていきます！ありがとうございました。
- ・今日の講座において千葉や宮崎の学生の夢を聞くことができ Web プログラマーや起業したい人が多くて驚きました。この授業を通してビジネスの生まれ方や進め方、アイデアをまとめ深く内容を掘り下げるためのいろいろな方法が分かったので今後の将来に活かしていきたいです。
- ・留学生の方々の企業に対しての意識の高さを感じ、日本人の国民性の違いもあるのかなと感じました。企業をしたいという意味は私にはありませんが、起業したい方々のサポートを行いたいと思っているので今回学んだことを今後活かしていきます。

3.4.実証講座まとめ

実証講座の結果についてまとめを行う。

今回の実証講座は ZOOM で接続した 3 校同時開催という試みで、学生たちにはいい刺激になったようだ。日本人学生と外国人留学生がそれぞれチームを作ってグループワークや発表をしてプロジェクトを進めていくという取り組みはどの学生も経験がなかったようで、アンケート結果からも「面白かった」「勉強になった」という声が多く挙がっている。

今回は 15 時間という短い講師主導型の PBL だったため、テーマや方向性などはある程度限定されていたが、それぞれのグループが独自性のあるビジネスの発表を行っていたため、有意義な取り組みになったと思われる。また、第 1 回と最終回でそれぞれアンケート項目になっていた「起業をしたいと思っていますか。」という質問に対して、「とても思っている」「思っている」を合わせた割合が増えている。これは今回の PBL の実証講座によって起業意識が高められたと考えられることから、実証講座の成果としても成功だったと考えられる。今回の実証講座では行うことができなかったが、45 時間などのより長い PBL を実施すれば、よりアイデアやビジネスモデルの深掘りができ、さらに受講者たちにも有意義になったと思われる。

新型コロナウイルスの流行により、県をまたいだ移動が難しくなったため、3 校を同じ場所に集めて、日本人学生と外国人留学生でチームを組んでのプロジェクトを行うことができなかったのは残念である。しかし、日本人と外国人留学生が画面を通して同じ授業・プロジェクトを経験できたことは双方にとって大変いい経験になったと思われる。

4. ま と め

4.1. 今年度事業の総括

4.2. 事業終了後の成果活用方針

4.3.今年度事業の総括

今年度の事業活動は、シラバス、「ビジネス基礎」「ビジネスフレームワーク」「先端技術
オーバービュー」「経営戦略マネジメント」「IT テクノロジー概論」「先端技術と社会」の教
材を開発した。また、e ラーニングシステムを開発しこれらの教材を e ラーニングコンテン
ツ化して実装した。

さらに、昨年度開発したケーススタディの教材の解答例を作成した。本報告書で一部紹介
したが、作成した全ての解答例は附録に収録している。

そして昨年度試作したものをベースとして PBL 教材を本格的に開発した。この教材は一
部手を加えて実証講座委に使用した。

実証講座では 15 時間で PBL 教材を使用し教師主導の形式で新規ビジネスの企画提案プ
ロジェクトを行った。ZOOM で 3 校を接続しそれぞれの学校でグループを組んで、講義、
グループワーク、発表のプロセスを行った。受講後のアンケートでは初回と比べて起業をし
たと思っている割合が上がっており、今回の実証講座は教材及び教育内容の実証として成
功であったといえる。

4.4.事業終了後の成果活用方針

今年度は、本事業の 3 年目であり最終年度である。これで委託事業としての期間は終了となるが、引き続き本事業の成果物に関しては当財団で運用していく。

まず、事業終了後は本事業の実施委員会に参画する専門学校等の教育機関に対し、PBL 教材やケーススタディ教材、e ラーニングなどの成果物をニーズに応じて導入していく。そこで、実際のビジネス系授業の教育において継続的に成果物を活用していただき、そこから得たフィードバックをもとに、必要に応じて教材のアップデートを行う。

また、ビジネス系専門学校を中心とした教育機関に対して、ニーズに応じて本事業の成果物や知見を普及していけるよう施策を検討する。そのために、本事業の実施委員会参画機関を中心として当財団が主体となりビジネス系教育に関する取り組みを行う連携組織を構築し、情報共有を行う。また、成果物の活用を希望する教育機関などに対して、この連携組織に参画することを検討していただくことを通して、継続的に本事業の成果物や知見を活用し、アップデートを行っていききたい。

